

## 資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方に関する研究

-「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を通して-  
【2年研究】

### 中学校・高等学校 英語科

#### 【研究の概要】

次期学習指導要領では、「何を学ぶか」という指導内容の見直しにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据え改訂される。本研究は、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点から授業改善と学習評価の改善に取り組み、資質・能力の「三つの柱」の育成につなげる授業の在り方について提案するものである。

キーワード：次期学習指導要領 主体的・対話的で深い学び 見方・考え方 統合的な言語活動

#### 《研究協力校》

岩手県立岩泉高等学校

#### 《研究協力員》

奥州市立江刺第一中学校

教諭 小野寺 理 沙

平成 29 年 3 月  
岩手県立総合教育センター  
教科領域教育担当  
高 橋 成 周  
寒 河 江 研 哉

## 目 次

I	研修主題	1
II	研究主題設定の理由	1
III	研究の目的	1
IV	研究の目標	1
V	研究の見通し	1
VI	研究の構想	2
1	研究に対する基本的な考え方	2
(1)	現行学習指導要領における英語科の成果と課題について	2
(2)	英語科において育成すべき資質・能力について	2
(3)	英語科における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について	5
(4)	「主体的・対話的で深い学び」の実現について	5
2	実践に向けて	6
(1)	英語科における資質・能力を育成する学びの過程について	6
(2)	単元構想について	8
(3)	一単位時間における学習過程について	9
(4)	学習評価の在り方について	10
ア	評価の観点	11
イ	評価の方法	11
3	研究の全体構成図	12
VII	理論構築のための授業実践	13
1	中学校における授業実践	13
(1)	授業実践の内容	13
(2)	授業実践後の捉え	29
(3)	理論実践のための留意点	31
2	高等学校における授業実践	33
(1)	授業実践の内容	33
(2)	授業実践後の捉え	43
(3)	理論実践のための留意点	46
VIII	研究のまとめ	47
1	研究の成果	47
2	今後の課題	48
3	来年度に向けて	48
	<おわりに>	48
IX	引用文献、参考文献及び参考 Web ページ	48

## I 研究主題

育成すべき資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の進め方に関する研究【2年研究】

ー「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を通してー

## II 研究主題設定の理由

平成27年8月、中央教育審議会教育課程企画特別部会は、次期学習指導要領の基本的方針について「論点整理」(2015)にまとめた。その後、平成28年8月には「論点整理」を踏まえ「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(以下「審議のまとめ」という)」(2016)が取りまとめられ、同12月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(以下「答申」という)」(2016)が出された。それらの中で、グローバル化による社会の多様性や急速な情報化、技術革新による人間生活の質的な変化の影響により、子供たちの成長を支える教育の在り方も新たな事態に直面していると指摘している。

これからの社会を創り出していく子供たちに求められる資質・能力とは何かを、学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて『何ができるようになるのか』という観点から、育成を目指す資質・能力を以下の三つの柱(以下「三つの柱」という)で整理している。

- ① 「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」
- ② 「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」
- ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養)」

これら「三つの柱」をバランスよく育むためには、『何を学ぶのか』という指導内容等の見直しとともに、それらを『どのように学ぶのか』という子供たちの具体的な学びの姿について「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点からの見直しが欠かせないものとしている。

こうした流れを受け、本研究では、「三つの柱」を総合的に育むことを目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点からの授業改善に取り組んでいく。その際、指導法を一定の型にはめ、狭い意味での授業方法や授業技術の改善に終始しないようにすることに留意していく。また、授業をより充実したものにしていくために、「生徒たちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉える学習評価についても取り組んでいく。あわせて、学習評価の内容を学習・指導方法の改善につなげていくカリキュラム・マネジメントの考え方についても検討していく。

## III 研究の目的

次期学習指導要領が目指す資質・能力の「三つの柱」を総合的に育むため、中学校、高等学校の教員に「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善と生徒の学習の成果を的確に捉える学習評価の改善を促す。

## IV 研究の目標

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育むため、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の在り方と生徒たちの学習の成果を捉える学習評価の在り方について研究し、研究内容をガイドブックにまとめ、授業実践により、その有効性を明らかにする。対象校種・教科は、中学校及び高等学校の国語科、数学科、理科、社会科、地理歴史科、公民科、外国語(英語)科とする。

## V 研究の見通し

中学校及び高等学校の国語科、数学科、理科、社会科、地理歴史科、公民科、外国語(英語)科における授業において、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善、及び生徒の学習の成果を適切に捉える学習評価の改善を行うことによって、資質・能力の「三つの柱」が生徒にバランスよく育成されることを目指す。

1年次は研究理論の構築をし、2年次は研究理論に基づいた授業実践からの検証を行う。

## VI 研究の構想

### 1 研究に対する基本的な考え方(中央教育審議会教育課程部会「答申」(2016)より引用)

#### (1) 現行学習指導要領における英語科の成果と課題について

##### ア 成果

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力の育成を目標として掲げ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などを総合的に育成することをねらいとして改訂され、様々な取組を通じて充実が図られてきた。

##### イ 課題

一方で、指導改善による成果が認められるものの、児童生徒の学習意欲に関わる課題や、学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている。

中・高等学校においては、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや、生徒の英語力では、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現することなどに課題がある。

##### ウ 課題を踏まえた英語科の目標の在り方

これらの課題を踏まえ、「特に、他者とのコミュニケーション(対話や議論等)の基盤を形成する観点を、外国語教育を通じて育成を目指す資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、他の側面(創造的思考、感性・情緒等)からも育成を目指す資質・能力が明確となるよう整理することを通じて、更に外国語教育における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を育成することを目標として改善を図る。

併せて、後述(3)の英語科における「見方・考え方」を働かせながら、外国語教育において求められている資質・能力を育むために必要な教科等目標を設定する。

#### (2) 英語科において育成すべき資質・能力について

英語科において育成を目指す資質や能力については、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿った整理を行い、【表1】のとおり取りまとめている。

外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要がある。

「知識・技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現することを繰り返すことで、児童生徒に自信が生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層向上するため、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」は不可分に結び付いている。児童生徒が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて児童生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の高まりを目指した指導をすることが大切である。

【表1】英語科において育成を目指す資質・能力の整理(中央教育審議会教育課程部会「答申」(2016)より)

知識・技能 (何を知っているか, 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力, 人間性等 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
<p>○外国語の特徴やきまりに関する理解 ・音声, 語彙・表現, 文法の知識</p> <p>○言語の働き, 役割に関する理解(例) ・コミュニケーションを円滑にする (繰り返す, 言い換える等) ・気持ちを伝える (感謝する, 謝る等) ・情報を伝える (説明する, 理由を述べる等) ・考えや意図を伝える (賛成・反対する, 主張する等) ・相手の行動を促す (依頼する, 許可する等)</p> <p>※各言語活動に応じた言語の働き</p> <p>○外国語の音声, 語彙・表現, 文法の知識を, 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を活用した実際のコミュニケーションにおいて運用する技能</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>◆外国語で, 情報や考えなどを表現し伝え合う力</p> <p>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて, 幅広い話題について, 外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力</p> <p>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて, 幅広い話題について, 外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して, 外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概用・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力</p> <p>◆考えの形成, 整理</p> <p>○目的等に応じて, 外国語の情報を選択したり抽出したりする力</p> <p>○知識や得た情報を活用して, 自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力</p> <p>○形成・整理・再構築した自分の意見や考えを, 実際に外国語で表現する力</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○外国語を通じて, 言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</p> <p>○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度</p> <p>○他者を尊重し, 聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら, 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して, 情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度</p> <p>○外国語を通じて積極的に人や社会と関わり, 自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め, 尊重しようとする態度</p> <p style="text-align: right;">など</p>

また、各学校種における育成を目指す資質・能力は、次の【表2】のように整理されている。

【表2】資質・能力の3つの柱に沿った、小・中・高を通じて外国語教育に応じて育成すべき資質・能力の整理(外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて(報告)(以下「WGにおける審議のとりまとめ」(2016)という)より

	知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
外国語活動 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語への慣れ親しみ</li> <li>○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること</li> <li>○外国語を聞いたり、話したりすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通じて言語の大切さや、文化の違いに気付く</li> <li>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度など</li> </ul>
外国語 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉の仕組みへの気付き(音、単語、語順など)</li> <li>○聞くことに関する知識・技能</li> <li>○話すことに関する知識・技能</li> <li>○外国語を読んだり、書いたりすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</li> <li>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度など</li> </ul>
外国語 中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識</li> <li>○言語の働きや役割などの理解</li> <li>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用して実際のコミュニケーションで運用する技能など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う力</li> <li>○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</li> <li>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度など</li> </ul>
外国語 高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識</li> <li>○言語の働きや役割などの理解</li> <li>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用して実際のコミュニケーションで運用する技能など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション力</li> <li>○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</li> <li>○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度</li> <li>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度など</li> </ul>

- (3) 英語科における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について（答申（2016）より引用）

各教科等における「見方・考え方」とは、学びの過程の中で、“どのような視点で物事を捉え、どのように思考していくのか”という、物事を捉える視点や考え方のことを指す。

英語科においては、他者とコミュニケーションを行う力を育成する観点から、社会や世界とのかかわりの中で、外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、外国語を聞いたり読んだりすることを通じて様々な事象等を捉え、情報や自分の考えなどを外国語で話したり書いたりして表現して伝え合うなどの一連の学習過程を経て、子供たちの発達段階に応じた「見方・考え方」が成長することを重視し、整理することが重要である。

外国語教育において育成を目指す資質・能力を踏まえ、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者とのかかわりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成・整理・再構築すること」と整理する。

- (4) 「主体的・対話的で深い学び」の実現について

外国語教育においては、質の高い学びに向けて、学びの過程を、相互に関連を図りつつ、改善・充実を図ることが必要である。そのような過程で外国語によるコミュニケーションを通じて、自分の思いや考えが深まったり更新されたりすることを児童生徒が認識し、自信を持つことができるような学習活動を設けることが重要である。答申（2016）では、英語科における「主体的・対話的で深い学び」について、次のように説明されている。

ア 「主体的な学び」

「主体的な学び」の過程では、外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげることが重要である。このため、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達の段階に応じて、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定することなどが考えられる。

イ 「対話的な学び」

「対話的な学び」の過程においては、他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ることが重要である。このため、言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成するという観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。

ウ 「深い学び」

「深い学び」の過程については、言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり：interaction）」、「話すこと（発表：production）」、「書くこと」）において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりする中で、外国語教育における「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする。このため、授業において、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動を効果的に設計することが重要である。

また、「WGにおける審議のとりまとめ」(2016)では、中・高等学校段階における「深い学び」の学習過程について、次のように取りまとめられている。

○中学校では、具体的で身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができる能力の育成が求められる。そのためには、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う対話的な言語活動を重視し、単に自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に伝えたり、出来事や体験したことなどについて書いたりするだけでなく、聞いたり読んだりしたことを基に問答したり意見を述べ合ったりすることや、感想、賛否やその理由を書いたりすることなど、複数の力を統合した言語活動を豊富に経験することが重要になる。

○高等学校では、日常的な話題や社会問題など幅広い話題について、外国語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする力の育成が重要になる。そのためには、聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用して話したり書いたりする統合型のスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどに主体的・協働的に取り組むことが大切である。これらの活動では中学校と同様、例えば、当該の話題に関する資料を十分に読み込み、自分の考えと理由を伝え合い、それを基にして情報や考えなどを整理して書くというように、複数の力を統合させて行うことになる。

## 2 実践に向けて

### (1) 英語科における資質・能力を育成する学びの過程について

「答申」(2016)によると、英語科における資質・能力を育成する学びの過程についての考え方について、以下のように述べられている。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学習過程に改善するため、育成を目指す「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう態度」の三つの資質・能力を確実に身に付けるように改善・充実を図る必要がある。

外国語教育における学習過程では、児童生徒が、

- ① 設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し設定する
- ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる
- ③ 対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う
- ④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う

というプロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていくことが大切になる。

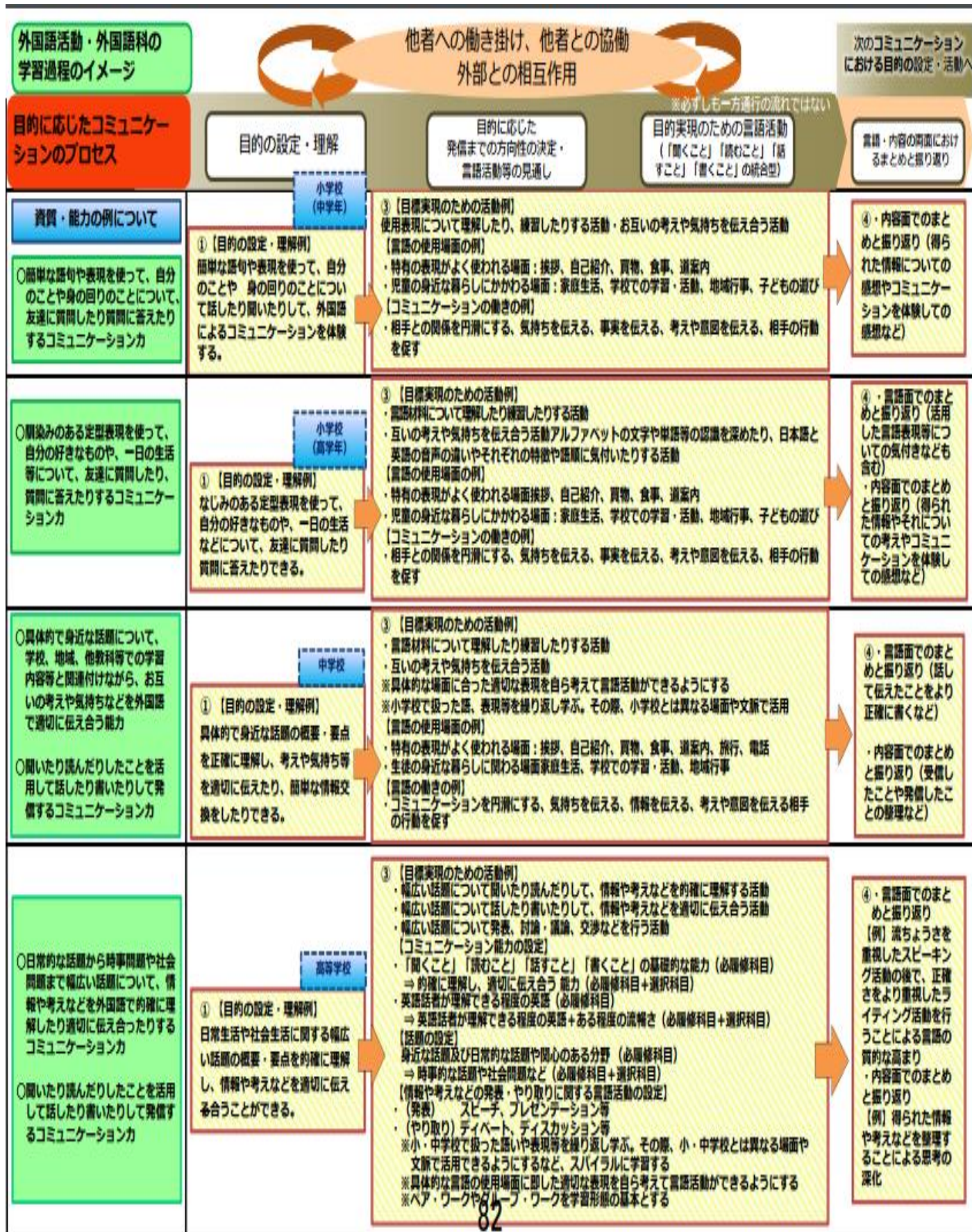
これらのことを踏まえた上で、外国語教育における「アクティブ・ラーニング」の視点に立った学びを推進する学習過程へ改善する必要がある。

このような発達段階に応じた学習過程を経ることによる思考力や判断力の高まり、外国語による表現力の向上、自律的・主体的に学習する態度の育成などを通じ、情報や考えを的確に理解し、適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成することが重要である。

外国語教育において育成を目指す資質・能力の向上を図るためには、こうした学習活動を繰り返すことが重要である。なお、これらの学習過程は必ずしも一方向の流れではなく、指導のねらいに応じて戻ったり繰り返したりする場合があること、単元全体を通して「身に付けさせたい力」を育成するのであって、一単位時間の中で育成を目指す資質・能力の全てを扱う学習内容を実施する必要はなく、その一部のみを取り扱う場合があること、単元によってそれぞれの学習活動に軽重を付けて扱うものであることなどに留意する必要がある。

英語科における資質・能力の育成を図るための学習過程について、「答申」(2016)より示されたものを【図1】に示す。





【図1】英語科における資質・能力を育成する学習過程

(2) 単元構想について

外国語教育において育成を目指す資質・能力の向上を図るために、単元全体を通して「身に付けさせたい力」を育成するために、到達目標の姿から考える、バックワード・デザインを意識した単元構想を行うことが必要である。前頁【図1】の学習過程を基に、その例を【表3】に示す。

【表3】単元における学習過程の例

学習過程		英語科における資質・能力		学習活動
目的的理解 目的の設定・把握 発信までの方向性の決定・言語活動等の見通し 目的の実現のための言語活動 (「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型)	最終到達目標(単元のゴール)の理解・把握	他者への働きかけ・他者との協働・外部との相互作用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●導入された内容と自分との関連性を見いだす力</li> <li>●これから学習する内容について、見通しを持ち、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度</li> <li>●生徒と教師が最終到達目標を共有し、それに向けて何をどのように学ぶかを整理する力</li> <li>●外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習する内容についての全体像を把握し、最終到達目標を理解する活動</li> </ul>
	単元のゴール達成のための内容理解		<ul style="list-style-type: none"> <li>●単元のゴール達成のために、外国語の音声、語彙、表現、文法の知識等を学び取ろうとする態度</li> <li>●言語の働きや役割などを、場面を通して理解する力</li> <li>●外国語の音声、語彙、表現、文法の知識を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用しながら理解する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語材料について理解したり練習したりする活動</li> <li>・互いの考えや気持ちを伝えあう活動</li> </ul>
	単元のゴール達成に向けての練習		<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校では具体的で身近な話題について、高等学校では日常的话题から時事問題・社会問題まで幅広い話題について、外国語を「聞いたり」「読んだり」して情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力</li> <li>●中学校では具体的で身近な話題について、高等学校では日常的话题から時事問題・社会問題まで幅広い話題について、外国語を「話したり」「書いたり」して情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力</li> <li>●自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い話題について聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する活動</li> <li>・幅広い話題について話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝え合う活動</li> </ul>
	単元のゴールとなるアウトプット活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>●他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度</li> <li>●外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用して実際のコミュニケーションで運用する技能</li> </ul>	
言語・内容の両面に 返り おけるまとめと振り返り	単元の振り返り		<ul style="list-style-type: none"> <li>●【言語面と内容面で期待されること】</li> <li>●流暢さを重視したスピーキング活動の後で、正確さをより重視したライティング活動を行うことによる言語の質的な高まり</li> <li>●得られた情報や考えなどを整理することによる思考の深化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話して伝えたことをより正確に書く活動</li> <li>・受信したことや発信したことを整理する活動</li> </ul>

(3) 一単位時間における学習過程について

2 (1) で述べたように、一単位時間で身に付けさせたい資質・能力を育成するための授業の在り方について、特に課題となっている「話す力」の育成を目指した学習過程の在り方について、村野井(2006)が示した PCPP サイクルの考え方を取り入れた例を【表4】に示す。

【表4】一単位時間における学習過程例

学習過程	学習活動	資質・能力
◇導入 (Presentation) 本時のゴール 理解・把握	○本時の話題について ・Teacher Talk における生徒の背景知識を引き出す発問、写真や映像等を使ったデモンストレーションを通して、これから学ぶ内容とゴールを理解させる。 ・バックワード・デザインをもとに、アウトプットまでに必要な活動をスモールステップで積み上がるよう設定し、黒板に示すなどして、生徒と共有する。	主体的に学習に 取り組む態度
◇展開 (Comprehension) 本時のゴール 達成のための 内容理解	○具体的で身近な題材のみならず、抽象的な題材や広く社会や世界に関する題材についても、その概要・要点を正確に理解する活動を設定する。 ・本文の内容理解や言語材料について理解する活動を行う。	知識・技能
◇展開 (Practice) 本時のゴール 達成にむけて の練習	○言語材料の理解を基礎に、音読練習をしたり、自分で文を作ったりするなど、学習到達目標を達成するためのそれぞれの活動の役割や意図を理解したうえで、実際に言語を使ってみる活動を設定する。 ○ペア活動やグループ活動などを効率的かつ効果的に行えるよう、それぞれの活動の目的に合わせて学習形態を工夫する。	知識・技能 思・判・表 思・判・表
◇展開 (Production) 本時のゴール としての Output 活動	○自分の意見や感想を相手に適切に伝えたり、調べてきた情報を共有したりするなど、積極的に意見や情報を交換することで理解を深める活動を設定する。 ○具体的な場面や状況に応じて、適切な表現を自ら考えて発信することができるよう課題を設定する。 【中学校】：互いの気持ちや考えなどを伝え合う、対話的な言語活動(言語の使用場面例) ・特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話 ・生徒の身近な暮らしに関わる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事(言語の働きの例) ・コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える相手の行動を促す。 【高等学校】 ・発表・討論・議論・交渉など、言語活動の高度化 ○既に学習した語や表現等も自分の言葉として自然に使うことで、「英語を使えた」という感覚を促し、理解と定着を図る。 ○自分に置き換えたならば、どう行動するかなど、言語材料を個人に落とし込む活動 (personalization) や、その後の発展的自律学習につながるオープンエンドな活動で単元を締めくくる。	思・判・表 思・判・表 知識・技能 思・判・表 思・判・表
◇終末 (feedback) 言語・内容の 両面における まとめと振り返り	○言語面でのまとめと振り返り ・話して伝えたことを「書く」活動を加えることで正確さを高める。 ○内容面でのまとめと振り返り ・学習した内容について、受信したことや発信したことを全体で共有し整理する。	主体的に学習に 取り組む態度 主体的に学習に 取り組む態度

(4) 学習評価の在り方について

ア 評価の観点

「目標に準拠した評価」の実質化を図ると共に、教科・校種を越えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から、観点別評価の観点については、資質・能力の3つの柱を踏まえたものとすることが求められ、外国語活動・外国語の評価の観点については、以下の【表5】のように整理される。

【表5】外国語活動・外国語における評価の観点のイメージ「WGにおける審議のとりまとめ」(2016) より

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校 外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、簡単な語句や表現などの外国語を聞いたり言ったりしている。</li> <li>○外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語との音声の違いに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりして表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> <li>○言語の大切さや、文化の違いに気づき、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>
小学校 外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」について、定型表現など実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身に付けている。</li> <li>○外国語の学習を通じて、言語の仕組み（音、単語、語順など）や、その背景にある文化などに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○馴染みのある定型表現を使って、自分のことや気持ち、身の回りのことなどについて質問したり答えたりするなどして表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> <li>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>
中学校 外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。</li> <li>○外国語の音声、語彙・表現、文法を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合っている。</li> <li>○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> <li>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</li> </ul>

<p>高等学校 外国語</p>	<p>○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。</p> <p>○外国語の音声、語彙・表現、文法を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。</p>	<p>○場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。</p>	<p>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p>
---------------------	---	---	---

## イ 評価の方法

「答申」(2016)には、学習評価について、以下のように述べられている。

○学習評価は、学校における教育活動に関し、子供たちの学習状況を評価するものである。「子供たちにどういった力が身に付いたか」という学習成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、この学習評価が極めて重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性をもった形で改善を進めることが求められる。

また、評価の観点や評価場面については、以下のように述べられている。

○観点別評価については、目標に準拠した評価の実質化や、教科・校種を超えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理することが必要である。

○これらの観点については、毎回の授業で全てを見取るのではなく、単元や題材を通じたまとまりの中で、学習・指導方法と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要である。

評価にあたっての留意点等として、以下のように述べられている。

○「主体的に学習に取り組む態度」については、学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートを取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。

○資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。

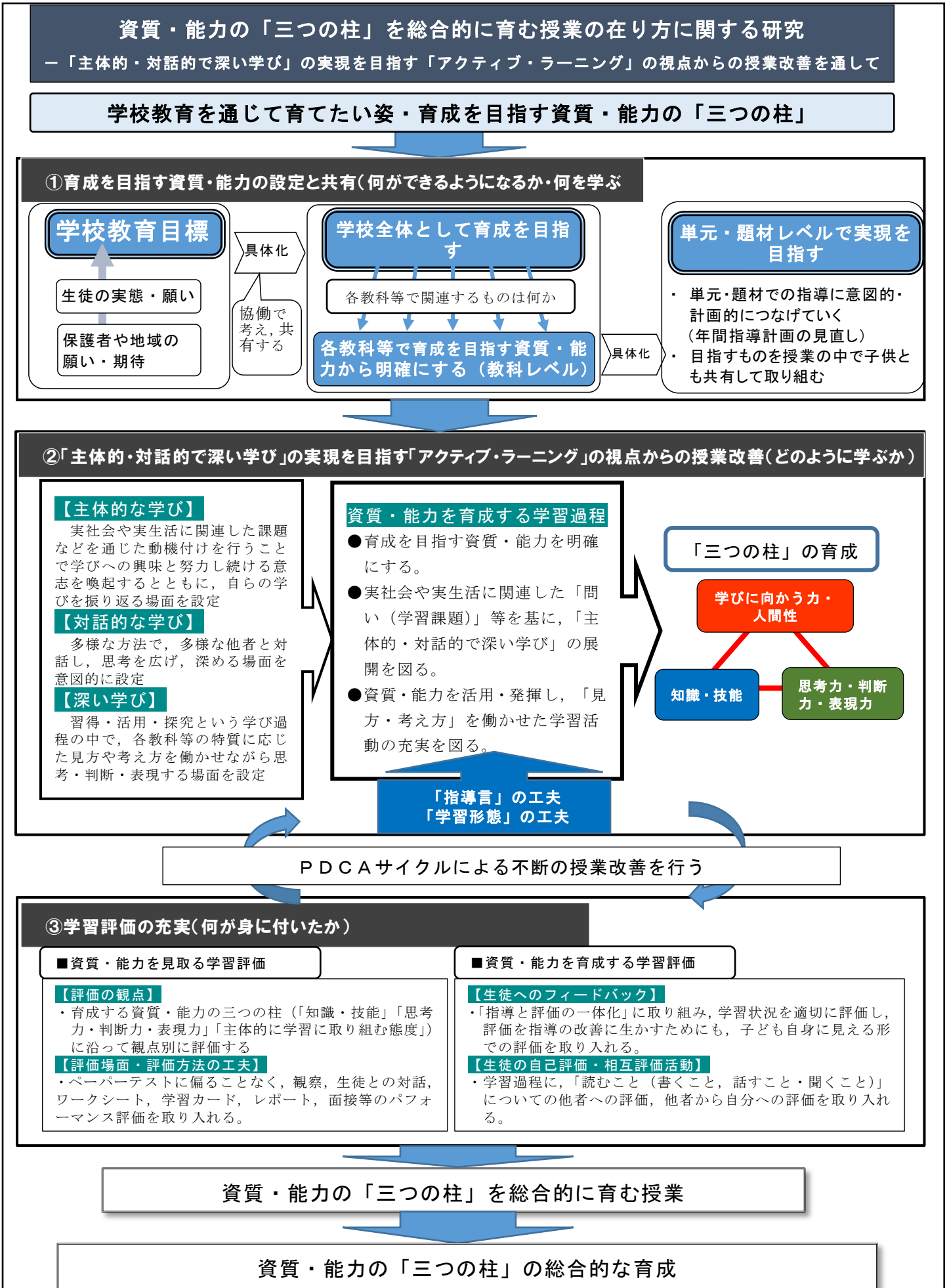
○子供一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにすることが重要である。そのため、子供たちが自己評価を行うことを、教科等の特質に応じて学習活動の一つとして位置づけることが適当である。

上記を踏まえ、本研究では評価に対する基本的な考えを以下の通りとする。

- (ア) 学習評価の目的は「学習成果の把握」「教員の指導改善」「学習者の学びの推進力」とする。
- (イ) 評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点とする。
- (ウ) 単元の中に学習・指導方法と評価の場面を適切に組み入れる。
- (エ) 評価規準は「子供たちにどういった力が身に付いたか」を子供の姿として示す。
- (オ) 単元に課題解決的な言語活動を位置づけ、パフォーマンス評価を行っていく。
- (カ) 学習活動の中に自己評価を位置づける。

### 3 研究の全体構想図

研究の全体構想については、【図2】のように考えた。



【図2】研究の全体構想

## VII 理論構築のための授業実践

### 1 中学校における授業実践

#### (1) 授業実践の内容

- (1) 授業者 総合教育センター 研修指導主事 高橋成周
- (2) 生徒 奥州市立江刺第一中学校 1年1組 32名
- (3) 実践日 平成28年10月6日(木)～10月18日(火)
- (4) 授業の実際 以下33頁まで

#### 1 単元名

Program7 The Wonderful Ocean (SUNSHINE English Course1)

#### 2 単元の目標及び単元で働く「見方・考え方」

##### (1) 単元の目標

- ・自分の大切な家族について、アメリカから来た転校生に紹介することができる。【話すこと（やりとり）】（思考・判断・表現）
- ・疑問詞(who や when)や、人称代名詞の目的格の使い方を理解し、相手と簡単なやりとりをすることができる。(知識・技能)
- ・話し手、聞き手に配慮しながら、英語を使って、相手と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。(主体的に学習に取り組む態度)

##### (2) 単元で働く「見方・考え方」

- ・自分の大切な家族について紹介するために、伝える相手の予備知識や、相手にとって必要な情報を中心に据えて、転校生とやりとりするという実際の活動場面において、自分が伝えたいことを整理し、まとめること。

#### 3 単元について

##### (1) 題材の設定について

本単元は、由紀とマイクが北海道の釧路沖でシャチウォッチングに参加して、ガイドの笹森さんからシャチやイルカの生態について教えてもらうという内容である。海のギャングと呼ばれるシャチだが実は家族を大切にすることや、室蘭沖のイルカが豊かな海でのびのびと子育てしている様子を通して自然の素晴らしさ、大切さを感じることができる題材である。

言語題材としては疑問詞 who, when を習得して、三人称単数現在形と組み合わせることで、多様な表現に結び付けることができる。また、代名詞の目的格を習得することで、つながりのある英文を意識させ、自分の家族について紹介したいことを、形成、整理、再構築しながら、表現する力を育成することができる考える。

##### (2) 生徒の実態

日々の授業において、協力してペア活動やグループ活動に取り組むことができている。また、英語での対話練習や発表活動においても、積極的に取り組んでいる。これらの実態をふまえ、与えられたテーマについて、自分の考えや気持ちを伝えあいたくなるテーマや、コミュニケーションに必要な具体的な場面を設定し、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築するような見方・考え方を働かせることで、一連の学習過程を経て思考を深め、コミュニケーション力の育成につなげたい。

##### (3) 指導にあたって

###### 【主体的な学び】

外国語科の目標に「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」が挙げられている。主体的に学ぼうとする意欲が高まらなければ、コミュニケーションは成り立たない。そこで、実際のコミュニケーションに近い、「自分の大切な家族について、アメリカから来た転校生に紹介することができる。」という、具体的な場面を設定する。これなら、状況設定も相手も明確であり、自分しか知らない伝えたい情報もあるので、表現する必然性が生じ、生徒の意欲を高めることができると考える。

また、単元の到達目標のルーブリックを作成し、生徒に提示する。生徒が自らどのような力を身に付けるかを、自覚化させることで、見通しを持って主体的に学びに向かうと考える。

授業の終わりには振り返りの場面を設け、その日学んだ表現や、クラスメイトとの関わりを通して学んだことを記述し、クラス内で交流する時間を設ける。学んだことや学び方について、自覚化させる目的と、次時の学習につなげられるような主体的な学びにつなげたい。

#### 【対話的な学び】

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教員と生徒や、生徒同士が対話し、思考を広げ深めていくことが求められる。

授業の始まりには、Teacher Talk を取り入れる。教科書の本文の内容に基づいたやりとりを行うことや、学んだ表現を基に必要な情報を伝え理解することを通して、生徒の興味関心を高め、実際に使えるようになることを目指していきたい。

また、ペアやグループ活動など、生徒同士の対話活動を効果的に取り入れ、相手に伝わるように話すにはどうしたらよいか、また、相手の気持ちや考えを理解したことを伝えるにはどうしたらよいかなど、相手を尊重し、他者と関わる資質・能力の育成を目指したい。そして、自分が伝えたかったことについて、学んだ表現を用いてお互いにやりとりするなど、学び合いを通して表現力の向上につなげたい。

#### 【深い学び】

生徒が習得した概念（知識）や考え方を実際に活用して、思考・判断・表現し、実際のコミュニケーション場面となる言語活動をゴールに設定することで、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」の実現を目指したい。

本文の内容理解につなげるために、キーワード・マップを取り入れる。マップを作成する活動を通して、日本語を介さず英語による理解を促すことができると考える。また、読み取ったことをペアに伝える統合的な活動を行うことで、相手を意識し、伝えたいことを既習表現を基に思考・判断させる。

そして、発表はマップを基に考え整理した内容を、何も見ないで即興で伝えさせる活動を行なわせることで、考えたことを整理し、再構築しながら表現することができる発信力の育成を目指したい。

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問詞(who や when)を用いた応答の仕方や、人称代名詞の目的格に関する知識や使い方を身に付けている。</li> <li>・あいづちをうったり、聞きなおしたりするなど、相手に伝わるように話したり、分からないことは聞きかえし、理解しようとするなど、実際のコミュニケーションに必要な技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の大切な家族について、伝えたい情報や気持ちを整理し、アメリカから来た転校生に紹介している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家族について、聞き手に伝わるように話したり、話し手が伝えたいことを理解しようとしたりするなど、相手に配慮しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>



5 単元の指導と評価の計画【全8時間】

時	学習過程	学習課題(○)と主な学習活動(・)	評価規準と評価方法
1	最終到達目標(単元のゴール)の把握	<p>○本単元の学習における目的の設定と理解</p> <p>○Whoを使って、有名人の3ヒントクイズを作り、出題することができる。</p> <p>・教師のデモンストレーションを見て、ゴールの活動となる活動の内容を理解する。</p> <p>・新出表現の理解活動を行う。</p> <p>・ホワイトボードを使用し、ペアで問題と3つのヒントを考え、見ないで言えるようになるまで練習する。</p> <p>・個人でクラスメイト3人以上に出題する。</p> <p>・出題した3ヒントクイズの問題の英文を書く。</p> <p>・振り返りシートを記入し、交流する。</p>	<p>【評価規準(B)】(知・技)</p> <p>・3つのヒントを考え、whoを使って、クイズを出題することができる。</p> <p>【Aの視点(例)】</p> <p>・相手に伝わるように、アイコンタクトやジェスチャーを交えたり、繰り返したりしながら出題できる。</p> <p>【Cの手立て】</p> <p>・問題を読みながらクイズを出題させる。</p> <p>【評価方法】</p> <p>・アウトプット活動の観察</p> <p>・ワークシートの記述内容</p>
2	目的性に応じた決定・発信までの見通し	<p>○P69の登場人物になったつもりで、大切なことを伝えるように会話を行うことができる。</p> <p>・Teacher Talkを基に、海の生き物について興味・関心を高める。</p> <p>・シャチウォッチングで、笹森さんがどのようなことを説明しているか、おおまかなあらすじをとらえる。</p> <p>・発音やイントネーションなどに気をつけながら、本文の音読練習をする。 (チャンク読み、オーバーラッピング、鉛筆おき読み、read &amp; look up)</p> <p>・グループごとに、つなぎ言葉や表情を意識しながら練習し、全体の前で本文の登場人物になりきってロールプレイを行う。</p> <p>・振り返りシートを記入し、交流する。</p>	<p>【評価規準(B)】(知・技)</p> <p>・登場人物になりきって、文の大切な部分は強く、ゆっくり話すことができる。</p> <p>【Aの視点(例)】</p> <p>・ジェスチャーやあいづちを取り入れながら、抑揚を付けて発表することができる。</p> <p>【Cの手立て】</p> <p>・教科書を見てもよいが、話すときは見ないように発表させる。</p> <p>【評価方法】</p> <p>・アウトプット活動の観察</p> <p>・ワークシートの記述内容</p>
3		<p>○自分が知っている人について、ペアで対話文を作り、発表することができる。</p> <p>・教師の対話を聞き、内容について考える。</p> <p>・新出表現の理解活動を行う。</p> <p>・新出表現のパターンプラクティス</p> <p>・him, herを用いて、ペアでスキットづくりに取り組む。</p> <p>・2人組×4グループを作り、発表を行う。</p> <p>・ペアで行った対話文を書く。</p> <p>・振り返りシートを記入し、交流する。</p>	<p>【評価規準(B)】(知・技)</p> <p>・対話文の後ろに最低1文付け足して、話すことができる。</p> <p>【Aの視点(例)】</p> <p>・プラスα以上のパフォーマンス(ジェスチャーやあいづち)を取り入れて話すことができる。</p> <p>【Cの手立て】</p> <p>・メモを見てもよいが、話すときは見ないように発表させる。</p> <p>【評価方法】</p> <p>・アウトプット活動の観察</p> <p>・ワークシートの記述内容</p>
4		<p>○シャチの生態について、キーワードを基に友だちに伝えることができる。</p> <p>・シャチのニックについて、Teacher Talkを聞きながら、前時の学習を振り返る。</p> <p>・笹森さんのシャチの生態の説明を聞き、聞き取りポイントを基に概要をつかむ。</p> <p>・内容を英語で把握させるために、聞いたことを基にマップをつくる。</p> <p>・本文の音読練習をする (Buzz Reading・一語読み・チャンク読み・Read &amp; Look up)</p> <p>・マップを書き直し、グループ内で説明する。</p> <p>・振り返りシートを記入し、交流する。</p>	<p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <p>・マップを見ないで、40秒以上話すことができる。</p> <p>【Aの視点(例)】</p> <p>・マップを見ないで、表情やジェスチャーを交えながら40秒以上話すことができる。</p> <p>【Cの手立て】</p> <p>・マップを見ながら話してもよいこととする。</p> <p>【評価方法】</p> <p>・アウトプット活動の観察</p> <p>・ワークシートの記述内容</p>

5		<p>○シャチの生態について、キーワードを基に友だちに伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップ発表の個人練習</li> <li>・自分が作成してきたマップについて、40秒話しきることができるように練習する。</li> <li>・列を作り、ペアを変えながら交互に発表する。</li> <li>・マップで使ってまとめ、話したことを英文で書く。</li> <li>・振り返りシートを記入し、交流する。</li> </ul>	<p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップを見ないで40秒以上話すことができる。</li> </ul> <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップを見ないで、表情やジェスチャーを交えながら40秒以上話すことができる。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップを見ながら話してもよいこととする。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプット活動の観察</li> <li>・ワークシートの記述内容</li> </ul>
6	<p>「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の目的実現のための言語活動</p>	<p>○自分の家族について、紹介したい内容を考え、マップを完成させることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のデモンストレーションを見て、発表のゴールをイメージする。</li> <li>・自分が紹介したい人について、マップにより伝えたい内容を考える。</li> <li>・振り返りシートを記入し、交流する。</li> </ul>	<p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が紹介したい家族のことについて、マップを書くことができる。</li> </ul> <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が紹介したい家族について、既習事項を多く使いながら、内容のまとまりのあるマップを書くことができる。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループで書きたい内容について、アイデアを教えてもらい、書くことができる。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプット活動の観察</li> <li>・ワークシートの記述内容</li> </ul>
7	<p>「書くこと」の統合型</p>	<p>○アメリカからの転校生に伝わるように、内容や方法を考えて紹介することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介した人について、どんな質問をされるか、ペアで考える。</li> <li>・ペアを変えながら、発表練習を行い、お互いのよいところをコメントし合う。</li> <li>・代表生徒が、全員の前でデモンストレーションする。</li> <li>・振り返りシートを記入し、交流する。</li> </ul>	<p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップを見ないで40秒以上話すことができる。</li> </ul> <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップを見ないで、表情やジェスチャーを交えながら40秒以上話すことができる。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップを見ながら話してもよいこととする。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプット活動の観察</li> <li>・ワークシートの記述内容</li> </ul>
8	<p>言語・内容の両面におけるまとめと振り返り</p>	<p>○自分の大切な家族について、アメリカから来た転校生に紹介することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3グループに分け、グループ内で列を作り練習する。</li> <li>・グループを3つに分け、転校生役の先生の前で、自分の家族について、40秒以上を目標に紹介する。</li> <li>・紹介した家族について話したことについての英文を書く。</li> <li>・振り返りシートを記入し、交流する。</li> </ul>	<p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したマップをもとに、まとまりのある内容で40秒以上話すことができる。</li> </ul> <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表情よく相手に伝える工夫をしながら、まとまりのある内容で40秒以上話すことができる。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したマップを手を持ち、心配な時は見ながら話してもよいこととする。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプット活動の観察</li> <li>・ワークシートの記述内容</li> </ul>

※主体的に学習に向かう態度は、コミュニケーション全体を支えるものとして、単元全体を通して評価するものとする。なお、評価方法については、生徒の行動、パフォーマンス、記述などから見取るものとする。

6 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点に立った授業改善

本実践で行った、「アクティブ・ラーニング」の3つの視点に立った、授業改善のポイントについて実践内容を記したものを【表6】のようにまとめた。これらの8つの実践内容を基に授業を行った。

【表6】「アクティブ・ラーニング」の3つの視点を取り入れた、実践内容

	「答申」(2016)の記述	実践内容
「主体的な学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むこと</li> <li>○自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【1】課題を明確に示す。 ・教師がデモンストレーションする。 ・ルブリックを提示し、生徒と共有する。</li> <li>○【2】学んだことをアウトプットする振り返りの場面を設定する。 ・振り返りシートを記述させ、発表によって学んだことを共有化する。</li> <li>○【3】目的・場面・状況等を明確にし、実際のコミュニケーションに近づけた、やりとりする必然性のある場面を設定する。</li> </ul>
「対話的な学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ること</li> <li>○言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視すること</li> <li>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場면을計画的に設けること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【4】教科書の題材や対話の内容について、読み取ったことを基に、ペアやグループ内で情報や意見、考えを伝え合う活動を取り入れる。</li> <li>○【5】教科書の題材や対話のテーマについて、教師と生徒または生徒同士によるやりとりを増やす。</li> <li>○【6】聞き手や話し手に配慮しながら、あいづちや反応を取り入れるなど、やりとりに必要な、双方向によるコミュニケーション力を育成する。</li> </ul>
「深い学び」 の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりすること</li> <li>○外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【7】教科書の内容や自分の紹介したい家族について、伝えたいことを整理し、まとめる。 ・キーワード・マップを作成する。</li> <li>○【8】身に付けた知識・技能を活用し、アウトプットする統合的な言語活動を行う。 ・海外から来た転校生に、自分の家族について紹介するという、実際のコミュニケーションの場面に近づけた、やりとりする必然性のある言語活動を設定する。 ・アウトプットに向けた練習時間を保障する。 ・発表したことを書く活動につなげる。</li> </ul>

7 各時の展開

【本時の展開 1 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	指導上の留意点と評価規準
導入 (12分)	1 今回の授業実践の趣旨について教師の話 を聞く  2 教師のデモンストレーションを見て、ゴ ールの活動となる場面内容を理解する  3 本時の学習到達目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒との対話を心がけながら話す。</li> <li>本単元のゴールを示す。</li> <li>本時の活動のゴールのデモンストレーショ ンを行い、ゴールの活動を提示する。</li> </ul>
<b>Today's goal : 有名人の3ヒントクイズを作り、出題することができる。</b>		
展開 (33分)	4 新出表現の確認 (1) who を使った疑問文の対話を聞き、あて はまる絵を選ぶ。  5 ペア活動 (1) ホワイトボードを使用し、誰について、 またそのヒントを、ペアで考える。 (2) 完成したヒントを、見ないで言えるよ うになるまで、ペアで練習する。  6 アウトプット活動 (1) 個人でクラスメイト3人以上に出題す る（普段の4人グループ以外の人に出 題すること。）  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ペアで考えた、who を使った3ヒント クイズを出題している。 ・相手をみず、ただヒントを書いた用紙 を読みながらクイズを出題している。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>決められた時間の中で活動させる。</li> <li>練習の前に、ゴールとなる出題の仕方につ いて、デモンストレーションを行い、ゴール 像の共有化を図る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価規準(B)】(知・技)</b> ・3つのヒントを考え、who を使って、クイ ズを出題することができる。</p> <p><b>【Aの視点(例)】</b> ・相手に伝わるように、アイコンタクトやジ ェスチャーを交えたり、繰り返したりしな がら出題できる。</p> <p><b>【Cの手立て】</b> ・問題を読みながらクイズを出題させる。</p> <p><b>【評価方法】</b> ・アウトプット活動の観察 ・ワークシートの記述内容</p> </div>
終末 (5分)	7 振り返り (1) 出題した3ヒントクイズの問題の英文 を書く。 (2) 振り返りシートに学んだことを記入 し、交流する。  8 次時の見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業で学んだこと、また、ペア学習 を通して学んだことを振り返りシートに 記入し、交流させる。</li> <li>次時の授業について確認する。</li> </ul>

【本時の展開 2 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	指導上の留意点と評価規準
導入 (10分)	1 90秒クイズを行う 2 教師の説明を聞き、本時の内容について、考える 3 本時の学習到達目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>Picture Card を基に、生徒と英語による対話を行う。</li> <li>どの役でもできるように、と伝える。</li> </ul>
<b>Today's goal : P69 の登場人物になったつもりで、大切なことを伝えるように会話をすることができる。</b>		
展開 (35分)	4 本文の内容理解 (1) 教科書は閉じたまま、リスニングポイントを考えながらCDを聞く。 (2) 自分の言葉で簡単にまとめる。(→ペア) (3) もう一度CDを聞き、男の人が驚いている理由を考える。 (4) 大切なことを伝えるために、どのようなことを心がければよいか、ペアで考えさせる。 5 音読練習 (1) 段階を追った音読練習を行う。 チャンク読み、オーバーラッピング、鉛筆おき読み、Read & Look up 6 グループ練習 (1) 伝えたいことを意識しながら、グループで練習させる。 7 アウトプット活動 (1) くじを引き、その場で誰を演じるか決める。(間違ったり止まったりしたときは、オーディエンスが教えてもよい。) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ◎登場人物になりきって、文の大切な部分は強く、ゆっくり発表している。              ・感情を込めず、抑揚もないまま、教科書を読んでいる。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人⇒ペアで意見交流</li> <li>自分たちの言葉でまとめさせ、理解をアウトプットにつなげる。</li> <li>★文の中の単語の強勢</li> <li>★イントネーション (教師の提示)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準(B)】(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物になりきって、文の大切な部分は強く、ゆっくり話すことができる。</li> </ul> <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジェスチャーやあいづちを取り入れながら、抑揚を付けて発表することができる。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を見てもよいが、話すときは見ないように発表させる。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アウトプット活動の観察</li> <li>ワークシートの記述内容</li> </ul> </div>
終末 (5分)	8 振り返り (1) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する。 9 次時の見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業で学んだこと、また、グループ学習を通して学んだことを振り返りシートに記入し、交流させる。</li> <li>次時の授業について確認する。</li> </ul>

【本時の展開 3 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	指導上の留意点と評価規準
導入 (16分)	1 90秒クイズを行う 2 教師の対話を聞き、本時の内容について、考える 3 本時の学習到達目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TTでデモンストレーションする。</li> </ul>
Today's goal: <i>自分が知っている人について、ペアで対話文を作り、発表することができる。</i>		
展開 (29分)	4 新出表現の理解 (1) P70 Listen に取り組む。  5 発音練習 (1) P70 の Speak についてペア練習 (どちらも言えるようになるまで練習)  6 ペア活動 (1) TRY を使って、スキットづくりに挑戦する。 ・基本コース：最低1文付け足す (B 評価) ・プラスαコース：前後に文を付け足す ・内容変更コース：内容を変更する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             ★Look at this ( ) Do you know ( )?              ☆Yes. ( ) is ( ).           </div> 7 アウトプット活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2人組×4グループを作り、発表を行う。(4カ所)</li> <li>・発表後は、お互いよかったところを褒める。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ◎対話の後ろに最低1文付け足して、会話している。              ・協力せず、ペアとの会話を行おうとしない。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでコースを考え、できるところまで作り、練習させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>【評価規準(B)】(知・技)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話文の後ろに最低1文付け足して、話すことができる。</li> </ul> <b>【Aの視点(例)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスα以上のパフォーマンス(ジェスチャーやあいづち)を取り入れて話すことができる。</li> </ul> <b>【Cの手立て】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを見てもよいが、話すときは見ないように発表させる。</li> </ul> <b>【評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプット活動の観察</li> <li>・ワークシートの記述内容</li> </ul> </div>
終末 (5分)	8 振り返り (1) ペアでやりとりしたスキットを書く。 (2) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する。  9 次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートを記入させる。</li> <li>・本時の授業でどんな表現を学んだか、また、友だちの発表を聞いて、学んだことを交流する。</li> <li>・紹介する家族の写真提出、宿題の確認</li> </ul>

【本時の展開 4 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	指導上の留意点と評価規準
導入 (13分)	1 90秒クイズを行う 2 教師の話聞き、登場人物について振り返る。 (1) シャチについて、知っていることをシェアする 3 本時の学習到達目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習表現を取り入れながら、英語でやりとりを行う。</li> <li>本時の内容について、自分と題材との関わりを促す。</li> </ul>
<b>Today's goal: シャチの生態について、キーワードを基に友だちに伝えることができる。</b>		
展開 (32分)	4 本文の内容理解 (1) 笹森さんの説明の内容について、聞き取りポイントを基に概要をつかむ。 ・2回聞き、メモを取る。 ・ペアで確認したあと、全体で確認する。 (2) CDを聞き、聞き取った内容をマップに書き込む(個人→ペアで書く) ・マップを使って、ペアで発表させる。 ・もう一度書く。 ・ペアを変えて発表させる。 ・内容の確認をするために、CDを聞く。 5 音読練習 (1) プリントを一度 Buzz Reading し、読めない単語に薄くアンダーラインを引く。 ・一語読み ・チャンク読み ・縦読みドリル(日→英:交代) ・Read & Look up 6 発表活動 (1) マップを書き直す。 (2) マップを使いながら、シャチの生態について、グループ内で説明できる。 (3) 代表1名が全体の前で発表する。 ◎シャチの生態について、マップを頼りに、なるべく見ないで40秒話している。 ・自分で作ったマップがないと、シャチの生態について、全く話すことができない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>閉本したままCDを聞かせ、Q&amp;Aを基に概要をつかませる。</li> <li>先にQ&amp;Aを読ませておく。</li> <li>マップを作成させることで、しっかりと情報を聞き取らせる。また、自分の言葉で伝えるために、キーワードをどうまとめるか、考えさせる。(思考・判断・表現)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マップを見ないで、40秒以上話すことができる。</li> </ul> <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マップを見ないで、表情やジェスチャーを交えながら40秒以上話すことができる。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マップを見ながら話してもよいこととする。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アウトプット活動の観察</li> <li>ワークシートの記述内容</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>列を作り、時計回りに発表させる。</li> <li>机間巡視を行い、クラスでの良い発表について交流させ、活動のレベルアップを図る。</li> </ul>
終末 (5分)	7 振り返り (1) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する 8 次時の見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業で学んだこと、また、友だちの発表を聞いて、学んだことを交流する。</li> </ul>

【本時の展開 5 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	指導上の留意点と評価規準
導入 (6分)	1 90秒クイズを行う 2 マップの確認 3 本時の学習到達目標の確認	
Today's goal: シャチの生態について、キーワードを基に友だちに伝えることができる。		
展開 (34分)	4 マップ発表の個人練習 ・自分が作成してきたマップについて、40秒しゃべりきることができるように練習する。 5 マップ発表 ・前列、後列で2列つくる。 ・交互に発表する。 ・時計回りで3回行う。 6 発表の振り返り ・記入したことについて、数名発表する。 ・全体の前で発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ◎シャチの生態について、マップを頼りに、なるべく見ないで40秒話している。              ・自分で作ったマップがないと、シャチの生態について、全く話すことができない。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 40秒話しきる。</li> <li>2回目 あいづちを打ちながら聞く。</li> <li>3回目 マップを見ないで発表する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップを見ないで40秒以上話すことができる。</li> </ul> <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップを見ないで、表情やジェスチャーを交えながら40秒以上話すことができる。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップを見ながら話してもよいこととする。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプット活動の観察</li> <li>・ワークシートの記述内容</li> </ul> </div>
終末 (10分)	7 振り返り (1) シャチの生態について、まとめて話したことについて書く。 (2) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する。 8 次の見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業で学んだこと、また、ペア学習を通して学んだことを振り返りシートに記入し、交流させる。</li> <li>・紹介する家族の写真提出、宿題について指示する。</li> </ul>



【本時の展開 6 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	指導上の留意点と評価規準
導入 (10分)	1 90秒クイズを行う 2 本時の学習到達目標の確認	・家族の紹介の仕方について、教師がデモンストレーションを行う。
<b>Today's goal: 自分の家族について紹介したいことについて、マップを完成することができる。</b>		
展開 (35分)	3 紹介用のマップを作成する (1) 教師のマップ例を基に、マッピングの仕方について理解する。 (2) 個人で、家族で伝えたいことについてマップを作る。 (3) ペアで、お互いが作成したマップを見て、紹介しあう。その後内容について、分かったことや、もっと知りたいことなどについて意見交換をする。 4 ゴールの姿について確認する (1) ルーブリックを基に、どのような発表ができればよいかイメージをもつ。 5 発表練習 (1) グループ内でペアを変えながら、発表練習を行う。 ・発表後は相互評価を行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ◎家族について紹介したいことについて、考えを広げながらマップを書いている。              ・伝えたい内容がまとまらず、マップを書くことができない。           </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【評価規準(B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が紹介したい家族のことについて、マップを書くことができる。</li> </ul> <p>【Aの視点(例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が紹介したい家族について、既習事項を多く使いながら、内容のまとまりのあるマップを書くことができる。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループで書きたい内容について、アイデアを教えてもらい、書くことができる。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプット活動の観察</li> <li>・ワークシートの記述内容</li> </ul> </div>
終末 (5分)	6 振り返り (1) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する 7 次時の見通しをもつ	・本時の授業で学んだことを振り返りシートに記入し、交流させる。 ・生徒の考えをペア、全体で共有させる。 ・次時の取組や、宿題の内容を伝える。

【本時の展開 7 / 8 時間目】

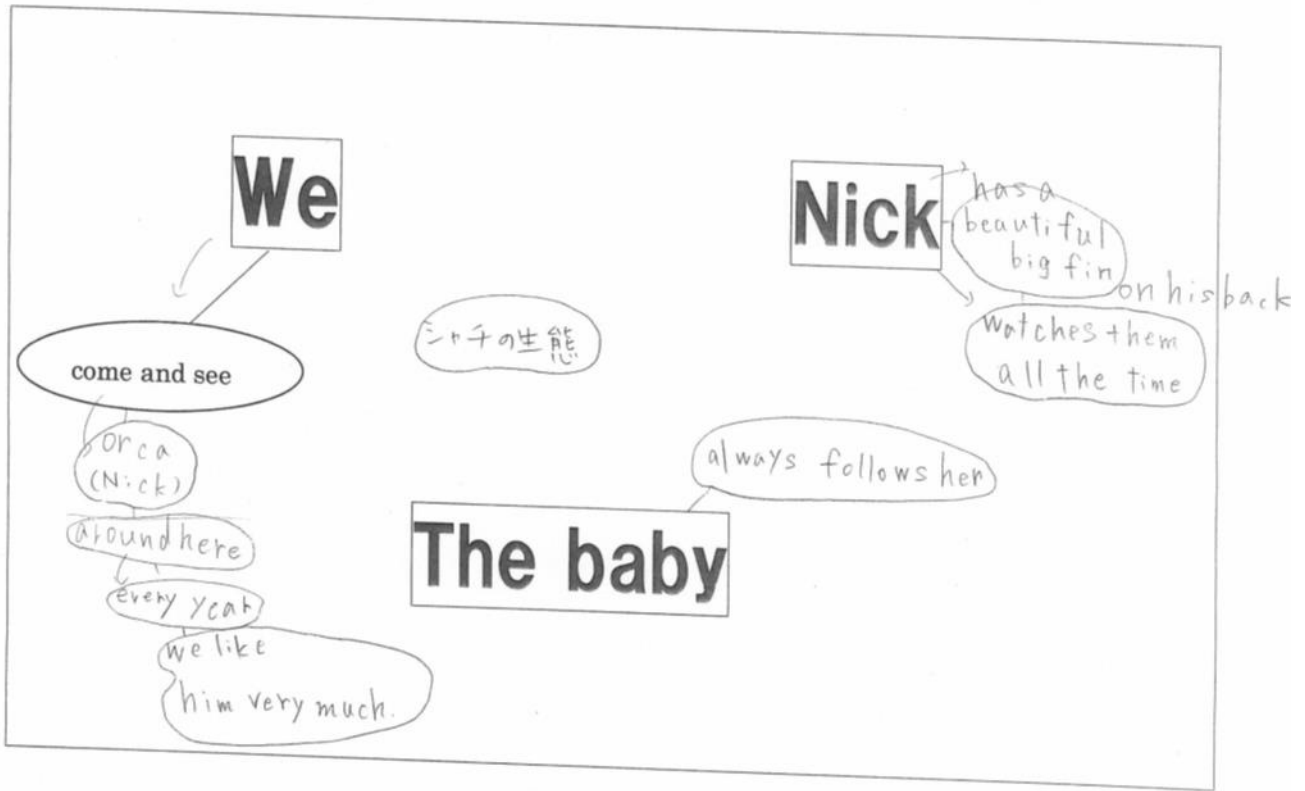
過程	学習活動 予想される生徒の姿	指導上の留意点と評価規準
導入 (8分)	1 90秒クイズを行う 2 Teacher Talk 3 本時の学習課題の確認	
<b>Today's goal : アメリカからの転校生に伝わるように、内容や方法を考えて、紹介することができる。(最終練習)</b>		
展開 (37分)	4 発表方法の確認 ・デモンストレーションを見て、ゴールの姿を確認する。 ・出だし、終わりについて確認する。 ・ループリックを確認する。  5 個人練習 ・マップの確認と個人練習  6 全体練習 ・列を作る。 ・40秒以上を目指し、交互に話し続ける。 <b>【目標4回】</b> ・発表後は評価カードを記入する。 (途中よいペアの発表を共有しながら行う) ・全体の前でデモンストレーションする。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">             ◎作成したマップの内容を基に、話す時は相手を見て、40秒以上話している。              ・作成したマップを手に持ち、マップを見ないと発表することができない。           </div>	<b>【発表方法：40秒以上】</b> ①挨拶(Hi. Hello. など) ②Look at this picture. ③紹介 ④I like him(her). を入れること ⑤Thank you. でしめる。  <b>【全体練習】</b> 1回目 40秒間話しきる。 2回目 あいづちを打ちながら聞く。 (あいづち、つなぎ言葉、質問する) 3回目 マップを見ないで発表する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【評価規準(B)】(思・判・表)</b>            ・マップを見ないで、40秒以上話すことができる。  <b>【Aの視点(例)】</b>            ・マップを見ないで、表情やジェスチャーを交えながら40秒以上話すことができる。  <b>【Cの手立て】</b>            ・マップを見ながら話してもよいこととする。  <b>【評価方法】</b>            ・アウトプット活動の観察            ・ワークシートの記述内容         </div>
終末 (5分)	7 発表の振り返り (1) 振り返りシートに学んだことを記入し、交流する。  8 次時の見通しをもつ	・本時の授業で学んだこと、また、発表練習を通して学んだことを振り返りシートに記入し、交流させる。  ・今日までの活動を振り返り、明日の発表に向けての意欲を高めさせる。

【本時の展開 8 / 8 時間目】

過程	学習活動 予想される生徒の姿	指導上の留意点と評価規準
導入 (5分)	1 ナンバーゲーム 2 本時の到達目標の確認	
<b>Today's goal : 自分の大切な家族について, アメリカから来た転校生に紹介することができる。</b>		
展開 (35分)	3 ルーブリックを確認する ・40秒間, 相手に伝える。 ・アイコンタクト, あいづち, 質問を入れながら対話する。 ・強調したいことは強く, ゆっくりと。 4 グループ練習 ・3グループに分け, 列を作り練習する。 5 生徒役の先生の前で発表 ・40秒以上を目標に話し続ける。 ・3カ所に分かれ, 順番に対話する。 ・1人ずつ先生の評価を受ける。 ◎自分の家族について紹介したいことを, 気持ちや考えを入れながらやりとりしている。 ・相手の表情を全く見ないで, マップに書いた内容を読んでいる。 6 Writing 活動 ・自分が発表した英文を書く。	<b>【発表方法 : 40秒間】</b> ①挨拶 (Hi. Hello. など) ②Look at this picture. ③紹介 ④その人をどう思っているか, を入れること ⑤Thank you. でしめる。 机いす移動。 話し終わった生徒は, 他の発表者のスピーチを聞く。 <b>【評価規準 (B)】</b> (思・判・表) ・作成したマップをもとに, まとまりのある内容で40秒以上話すことができる。 <b>【Aの視点 (例)】</b> ・相手に伝える工夫をしながら, まとまりのある内容で40秒以上話すことができる。 <b>【Cの手立て】</b> ・作成したマップを手を持ち, 心配な時は見ながら話してもよいこととする。 <b>【評価方法】</b> ・アウトプット活動の観察 ・ワークシートの記述内容
終末 (10分)	7 全体の振り返り (1) 振り返りシートに本時, 単元を通して学んだことを記入し, 交流する。	・本時の振り返り ・8時間の振り返りを記入

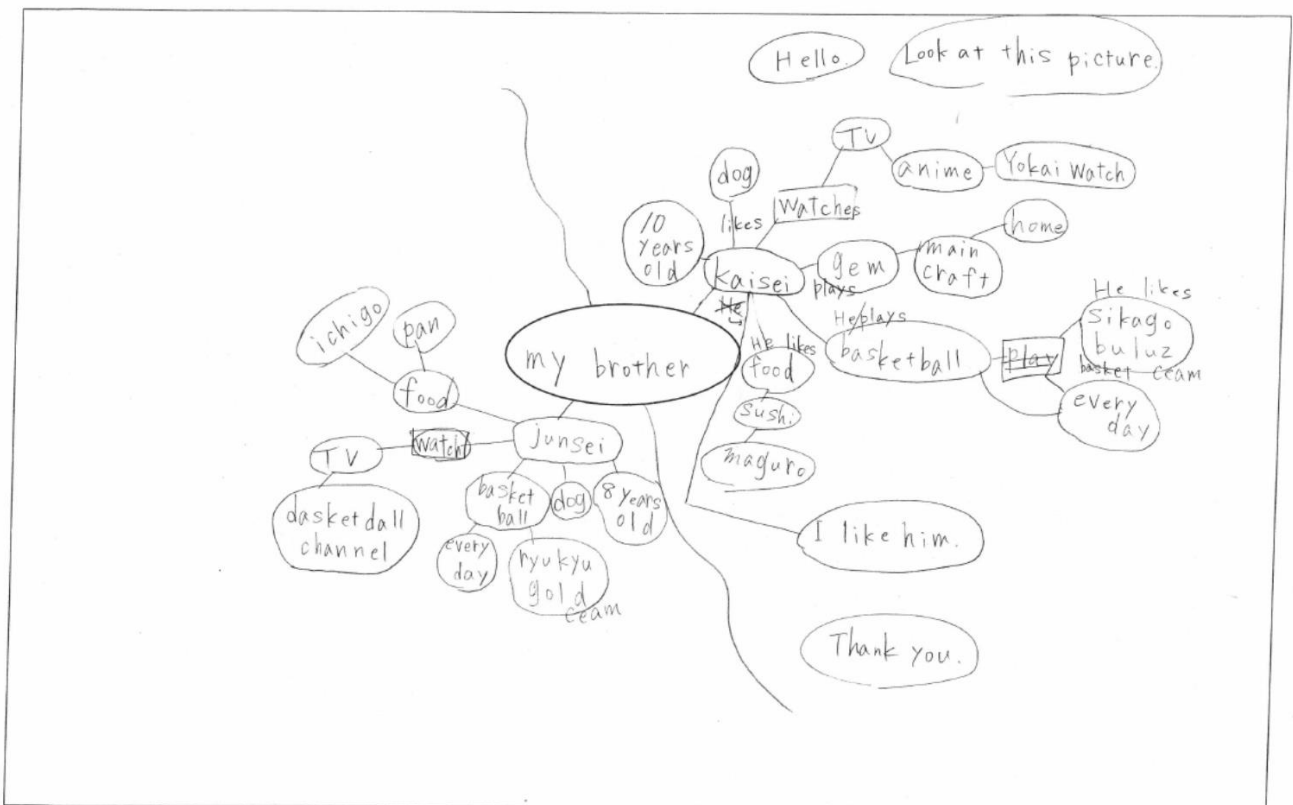
資料

① 本文の読み取りに使ったマップシート



② 家族の紹介に作成したマップシート

My Mapping Sheet



# Practice makes perfect.

～継続は力なり～

## ★PROGRAM7 ⑧


*Today's Goal:* 自分の大切な家族について、アメリカから来た転校生に紹介することができる。（発表）

### 【こんな発表を目指そう！】

観点／基準	A	B	C
・内容	自分の家族について、自分が紹介したい情報やその人についてどう思っているかなどの気持ちを取り入れた、まとまりのある発表内容である。	自分の家族について、自分が紹介したい情報についてまとめた発表内容である。	自分の家族について、情報量が少なく、同じ内容のことしか伝えていない。
・伝え方	相手にわかりやすく伝えるために①～④の手段を3つ以上使いながら、間を空けずに対話を40秒以上続けることができる。	沈黙（間）ができることはあるが、①～④の手段のうち、2つ以上使いながら、対話を40秒以上続けることができる。	相手を引きつけるためのAにあげた①～④の手段を使うことができず、40秒以上対話を続けることができない。 会話が止まってしまうと自分から立て直せず、先生の手助けが必要になる。
①相手の表情を見ながら会話する。 ②強調したい単語は強くゆっくりと伝える。 ③言いたいことが言えないときには、ジェスチャーなどを使う。 ④間を空けないように、つなぎ言葉を使ったり質問したりする。			


④ 家族についての発表をまとめた、紹介カード

Title: My brother  
CLASS ( )




Look at the picture.  
His name is [redacted].  
He's funny.  
He's 12 years old.  
He goes to [redacted] elementary school.  
He likes jojo.  
His favorite character is Dio.  
He has many comics.  
He eats cucumber.  
He drinks Akuerias. Thank you.

Title: My brother  
CLASS ( )




Hello, I'm [redacted]. Nice to meet you.  
Look at this picture. This is my brother.  
His name is [redacted]. This is his friend.s.  
He's seven years old. He plays base ball.  
He watches YOUKAI watch. ON Saturday.  
Do you watch TV? He likes Orochi.  
He uses a computer and watches You Tube.  
He sometimes cooks with my mother.  
I like him. He is interesting.  
Thank you.

Title: My brother  
CLASS ( / ) NO ( )



Hello. Look at this picture.  
He is my brother. His name is [redacted].  
He plays basket ball every day.  
He likes Chicago Bulls team very much.  
He likes Sushi.  
He plays game.  
He watches anime.  
I like him.  
Thank you.

Title: I like Ryu  
CLASS ( )



Hello. Nice to meet you. I'm [redacted].  
Look at the picture. This is my dog.  
His name is Ryu. He likes family and ball.  
He doesn't like thunder and big dog.  
He can play. Ote, Osuwari, Mate, Huse.  
His birthday is February 18.  
He's 15 years old.  
He is cute.  
I like him. Do you like dogs?  
Thank you.

(2) 授業実践後の捉え

ア 「主体的な学び」の実現に係る振り返り・記述から

「主体的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述を【表7】に示す。

【表7】「主体的な学び」の実現に向けての手立てと「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述

「主体的な学び」の実現に向けて		
「答申」の記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会・世界と関わり、生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むこと</li> <li>○自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげること</li> </ul>	
実践内容とその手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を明確に示す。【1】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師がデモンストレーションする。</li> <li>・ルーブリックを提示し、生徒と共有する。</li> </ul> </li> <li>○学んだことをアウトプットする振り返りの場面を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートを記述させ発表によって学びを共有化する。【2】</li> </ul> </li> <li>○目的・場面・状況等を明確にし、実際のコミュニケーションに近づけた、やりとりする必然性のある場面を設定する。【3】</li> </ul>	
振り返り及び観察の記述	生徒の振り返り	参観者の観察
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生が最初に行った発表を見て、これからどんなことができるようになればよいか、とてもわかりやすく、これからの授業が楽しみになった。</li> <li>・授業のおわりに振り返りを行うことで、その日勉強したことを振り返り、家で文を書いたり練習したりすることができた。</li> <li>・普段あまり話さない人とも話すことができるようになった。これからもたくさんの単語を学び、どんな状況でも外国人と会話ができるようになりたいです。</li> <li>・今回の発表では、あきらめず最後まで発表し、やりとりを続けることができた。</li> <li>・マッピングを見ないで言えてよかった。また、今まで学習したジェスチャーや強弱をつけて話せたので、自分の成長を実感することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者が本単元の目標についてデモンストレーションを見せたこと、生徒に身に付けて欲しい力について示したことで、生徒はこれから何を学ぶのか、明確に理解できた。最後のゴール像を見せることは重要だと感じた。</li> <li>・授業の最後に時間をかけて振り返り、振り返りシートの記入や交流を行うことで、全体で学びを共有できた。</li> <li>・Teacher Talkを通して、教科書の話題や、新出表現の場面提示において、生徒の興味が引きつけられていた。</li> <li>・自分の家族の誰かについて紹介していたが、自分が好きな人なので、話している表情がうれしそうだった。また、相手に聞いて欲しいという気持ちが伝わっていた。聞く側も自然とアイコンタクトや相手の気持ちを考えながら聞けるようになっていた。</li> <li>・語彙や文法に誤りがあっても、伝えたい英語を大切に、伝えようとする生徒の意欲を尊重することがとても大切だと思った。また、伝える必要性、場面、相手があれば、生徒はとても意欲的に取り組むのだということが本当によく分かった。研修会で学ぶ「場面設定」と「相手意識」の重要性を本当にきちんと理解でき、納得した。</li> </ul>

イ 「対話的な学び」の実現に係る振り返り・記述から

「対話的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述を【表8】に示す。

【表8】「対話的な学び」の実現に向けての手立てと「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述

「対話的な学び」の実現に向けて		
「答申」の記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ること</li> <li>○言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視すること</li> <li>○コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けること</li> </ul>	
実践内容とその手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の題材や対話の内容について、読み取ったことを基に、ペアやグループ内で情報や意見、考えを伝え合う活動を取り入れる。【4】</li> <li>○教科書の題材や対話のテーマについて、教師と生徒または生徒同士によるやりとりを増やす。【5】</li> <li>○聞き手や話し手に配慮しながら、あいづちや反応を取り入れるなど、やりとりに必要な、双方向によるコミュニケーション力を育成する。【6】</li> </ul>	
振り返り及び観察の記述	生徒の振り返り	参観者の観察
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人では思いつかないことをペアの人が思いついたりしていて、二人の方が考えを多く出せることを学んだ。</li> <li>・ペアを何回も変えながら、いろんな人と話すことで、自分とは違う考え方や発表を聞いて楽しかった。</li> <li>・なんて言えばいいか分からない時に動作で表したら、友だちがその単語を教えてくれた。教えてくれたこと、自分が言いたいことが伝わったことが嬉しかった。</li> <li>・相手の話を聞くときにジェスチャーを使ったり、リアクションを工夫したりすると、お互いに会話の内容を理解したことを伝えながら、会話できることを学んだ。</li> <li>・相手の発表を聞くときは、リアクションをして、自分の意見も言うとお話が楽しく続くことを学んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの抱えている疑問はそれぞれ違うので、「何がわからないのか」気付いたり、生徒同士で教えあったりする等、学ばせる機会を教師が見逃してはいけないと思った。</li> <li>・温かい雰囲気、生徒の笑顔がよく見られた。授業者のデモンストレーションもとても分かりやすく、聞く側と話す側がどんなふうに対話すればよいか、生徒は少しずつ理解し、意識できるようになっていった。</li> <li>・教師と生徒のやりとりだけではなく、生徒と生徒のやりとり、関わりが生徒にとって一番学びのある活動なのだ実感した。生徒一人一人の普段気づけない表情に気付けた。</li> </ul>

ウ 「深い学び」の実現に係る振り返り・記述から

「深い学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述を【表9】に示す。

【表9】「深い学び」の実現に向けての手立てと「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述

「深い学び」の実現に向けて	
「答申」の記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりすること</li> <li>○外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにすること</li> </ul>



<p>実践内容とその手立て</p>	<p>○教科書の内容や自分の紹介したい家族について、伝えたいことを整理し、まとめる。【7】</p> <p>○身に付けた知識・技能を活用し、アウトプットする統合的な言語活動を行なう。【8】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外から来た転校生に、自分の家族について紹介するという、実際のコミュニケーションの場面に近づけた、やりとりする必然性のある言語活動を設定する。</li> <li>・アウトプットに向けた練習時間を保障する。</li> <li>・発表したことを書く活動につなげる。</li> </ul>	
<p>振り返り及び観察の記述</p>	<p>生徒の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手にわかりやすく自分の考えを伝えることと、友達の発表を聞いて、もっとよくできないかと考えながら練習し、本番も話すことができた。</li> <li>・マップを使うことで、伝えたい物事を、筋道を立てて、考えながら伝える力が身に付いた。</li> <li>・今までは正しい英語にこだわって、なかなか話すことができなかったけど、マップで考えたことを、ジェスチャーを使って話せるようになった。</li> <li>・マップ用紙を見ないで、話す時は笑顔で相手の目を見て質問を入れたり、強弱をつけたりするなどの工夫をして発表できた。また、聞くときはうなづきながら質問したり、自分の考えも話したりして、楽しく会話することができた。</li> <li>・マップで自分とは違う考えで違うことを書いていて、そんな考え方もあるんだ、と気付いた。相手の話し方や聞き方が違って、いろんな人といろんな発表の仕方を楽しめた。</li> </ul>	<p>参観者の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアだけでなく、ぐるぐると順番に回って多くの人と話す練習をすることで、生徒の英文、表情、意欲が劇的に変わっていった。</li> <li>・マップ作成において、キーワードを見つけるには何度も何度も本文を読まなければいけないが、生徒は一生懸命に本文と向き合っていたようだった。</li> <li>・今までリテリングに取り組んだことがなく、また、今回のようなマップシートも指導しなかったのがなかったので、生徒はどんな反応を示すのだろうと思った。しかし、3つの分類を頼りに生徒は教科書からキーワードを見つけ出していった。</li> <li>・(単元のゴールとなる練習場面において) 授業の始めでは、自分の世界に入り込み、写真を持ってぶつぶつ練習に取り組んでいた。何度も言葉を思い出し、自分で声に出し確認しながら練習していた。下位の生徒も真剣に取り組んでいた。自分の家族を伝えたい気持ちが根底にあることがはっきり分かった。</li> </ul>

### (3) 理論実践のための留意点

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を念頭に単元を構成し授業実践を行ってきた。本実践を通して得られた留意点を以下に示す。なお、実践内容についての具体的な手立ては、本報告書の p17 に記載している。

#### ア 「主体的な学び」の実現に向けて

- ・手立て1 課題を明確に示す。

単元の到達目標となるパフォーマンスを具体的に示したことで、生徒がこれから何を学ぶのか、どのようなことができるようになればよいかを理解させることができ、学習意欲の向上につながることができたと考える。

また、ルーブリックを示すことは、生徒に学びに対する自分の立ち位置がどこにあるか、具体的には、「どのような力が身に付いたか」を意識させることができ、見通しを持ちながら学びに向かわせるうえでとても有効であると考え。その一方、どのような資質・能力を育成するか、明確にしながら、具体的で分かりやすい表現でルーブリックを作成することがとても大切であり、今後、研究を進めていく必要がある。

- ・手立て2 学んだことをアウトプットする振り返りの場面を設定する。

その日学んだことを振り返る時間を設定し、振り返りシートを記入させ、その意見や考えをグループで交流させた。その授業で学んだことを外化させることで、学んだことをより深い理解につなげ、次にどのような学びにつながっていくか、見通しをもたせることにつながった。

- ・手立て3 目的・場面・状況等を明確にし、実際のコミュニケーションに近づけた、やりとりする必然性のある場面を設定する。

「自分の大切な家族について、アメリカから来た転校生に紹介する」という、実際のコミュニケーションに近づけた必然性のある場面設定を行った。生徒は、大切な家族について伝えたい、という気持ちを持ち、相手のことをもっと聞きたいと思いながら活動していた。このように、生徒が自分の気持ちや考えをやりとりしたくなるような題材で、実生活につながるような場面設定が必要である。そのためには、教師が今以上に生徒に寄り添い、生徒の興味や関心を知る必要がある。

#### イ 「対話的な学び」の実現に向けて

- ・手立て4 教科書の題材や対話の内容について、読み取ったことを基に、ペアやグループ内で情報や意見、考えを伝え合う活動を取り入れる。

「アクティブ・ラーニング」では、生徒同士の話し合いや教え合い活動が重視されている。英語科においては、読み取ったことを基にQ&Aを行ったり、ペアやグループによるやりとりしたりする場面を設定することは、英語による理解や知識・技能を高めることにつながれると考える。

単元のゴールに向けた対話練習において、相手を変えながらやりとりする毎に、教え合ったり、お互いのよい点を学びあったりすることができた、という生徒の記述からも有効であることが分かった。

- ・手立て5 教科書の題材や対話のテーマについて、教師と生徒または生徒同士によるやりとりをする場面を増やす。

英語で授業を進めることの意義は、教師が英語で指示を出したり、文法の説明をしたりすることではない。生徒に英語を使わせるための目的や場面、状況を教室内で設定することが重要である。そこで、教科書の題材や新出表現について、教師がTeacher Talkを行うことで、英語を聞く機会、また、生徒が自分の気持ちや考えを伝え合う場面、新出表現に慣れながら英語による表現力を高めることができる。

また、ゴールに向けた言語活動でも、ペアを次々に替えながら生徒同士が対話する場面を設定したことで、話す内容にまとまりが生まれ、表情にも笑顔が見られ、自分の話す英語に自信を持ち、楽しみながら言語活動を行うことにつながった。

- ・手立て6 聞き手や話し手に配慮しながら、あいづちや反応を取り入れるなど、やりとりに必要な双方向によるコミュニケーション力を育成する。

コミュニケーションにおいて、生徒に身に付けさせたい資質・能力として、相手を思いやり、尊重する態度を育成することが挙げられる。そこで、伝える側は、相手に分かりやすいようにするにはどうしたらよいかを考えながら、やりとりさせることが重要であると考え。また、受け取る側も、相手が伝えようとしていることを理解しようとし、そのことを伝えることも、やりとりを通して考えるような、双方向によるコミュニケーション力の育成が重要であると考え。

#### ウ 「深い学び」の実現に向けて

- ・手立て7 教科書の内容や自分の紹介したい家族について、伝えたいことを整理し、まとめる。

本実践において、教科書の題材について内容理解を英語で行うために、読み取った内容を相手に伝える、という統合的なアウトプットを行うことで、生徒は意欲的に何度も読み返し、本文と向き合っていた。まさしく、これから生徒に身に付けさせるべき資質・能力を養うために必要な言語活動であるといえる。

その際、キーワード・マップを活用することで、教科書や相手の伝えたいメッセージを深く読み取り、自分の言葉として整理する力が身に付くと考える。

- ・手立て8 身に付けた知識・技能を活用し、アウトプットする統合的な言語活動を行う。

目的・場面・状況等を明確にし、実社会や実生活に結びつくようなやりとりを行う場面設定が鍵になると考える。その上で、生徒が本気になって自分のことを伝えたいようなテーマを基に、言いたいことを深く思考し、必要な既習表現を活用するような言語活動が必要であると考えられる。また、そのような言語活動を行う際に、自分と相手にインフォメーションギャップが生まれるような言語活動を設定し、話したり聞いたりする必然性を生み出すことが必要であると考えられる。

生徒全員、「できた」という達成感を味わわせるためには、目標に見合った意味のある練習が必要である。十分な練習時間とともに、ゴールに向けたスモールステップで活動を設定することで、生徒自身に成長と深い理解を実感させることができる。

エ 単元で働く「見方・考え方」を基にした単元構想に向けて

単元で働く「見方・考え方」を構造的に捉え、それに基づいた単元の指導を展開することにより、付けたい力を指導者が意識するとともに、学習者も付いた力を実感できる学びとすることができると考える。

## 高等学校における実践授業

### (1) 授業実践の内容

- |           |                            |
|-----------|----------------------------|
| (1) 授業者   | 総合教育センター 研修指導主事 寒河江研哉      |
| (2) 生徒    | 岩手県立岩泉高等学校 1年 AB組応用コース 25名 |
| (3) 実践日   | 平成28年11月21日(月)～11月22日(火)   |
| (4) 授業の実際 | 以下45頁まで                    |

### 1 単元名

Discovery English Communication I (開隆堂)  
Lesson 5 Many Animals Are Dying Out

### 2 単元の目標及び単元で働く「見方・考え方」

#### (1) 単元の目標

- ・絶滅種に関する具体的事例、人間の責任、そして救済方法について理解したことを発表している。(知識・技能)
- ・なぜ動物たちが絶滅に追い込まれた理由を考え、鍵になる表現を適切に活用しながら、適切に相手に伝えている。【話すこと(発表)】(思考・判断・表現)
- ・その他の絶滅危惧種についてのミニ・プレゼンテーションを行うという最終到達目標に向けて、教科書の内容理解や言語活動等を積極的に行っている。(主体的に学習に取り組む態度)

#### (2) 単元で働く「見方・考え方」

絶滅(危惧)種になってしまった経緯と人間の責任、そして救済方法を相手に伝えるために、最終到達目標としてミニ・プレゼンテーションをする場面を設定し、教科書で紹介された例を参考にしながら、ある種についてその切実さをグループごとに調べ、発表の準備をする過程において、内容理解を深めることができ、自分の考えが形成・整理・再構築されること。

### 3 単元について

#### (1) 題材の設定について

本題材は、学習指導要領のコミュニケーション英語Ⅰの目標「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に伝えたりする基礎的な能力を養う。」を主なねらいとして、内容(1)ア「事実に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。」及びウ「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見交換をしたりする。」に基づいて設定した題材である。本単元 Many Animals Are Dying Out は、絶滅(危惧)種を題材とし、人間との関わりのなかで絶滅の危機に瀕した例や、保護活動について学ぶ。教科書で紹介された動物以外にもレッドリスト等をキーワードに調べ学習をすることで、様々なことに気付かせ内容理解を深めさせたい。

#### (2) 生徒の実態

1学年を3つのコースに分け、そのうちの応用コース(進学希望)の生徒である。英語の苦手意識は他のコースと比べれば少ないが、英語を話すことについてはまだまだ積極的になれない状況である。地域の未来を背負う高校生として、地域の文化や伝統を積極的に外に発信していく力がこれからますます必要となっている。

### (3) 指導にあたって

最終到達目標を単元に入る最初の段階で提示する。その最終ゴール到達に向け、生徒が主体的に学習に取り組む仕掛けと毎時間の授業が有機的に機能するように指導する。

導入としては、本単元全体を見通した導入を行い、生徒の持っている背景的知識を刺激しながら英文を積極的に読みたいと思わせる状態を作りたい。また、語彙についても読前に導入するものと読後に導入するものとを分け、読前については教師によるインターアクションを交えながら英語で類推させ理解を促し、英文を読む際の動機付けの一助とする。

内容理解については、Q&A を中心に行う。Q についてはその答え (A) をつないで行くと本文の要約文になるように設定しておく。Q&A の答えの確認方法についても生徒同士のインターアクションを入れることで教師の一方的な答え合わせにならないように配慮する。

更に深い内容理解の手段としてワードマッピングを活用する。ストーリー・リテリングのための準備であると同時に、本文を内容にフォーカスして再び読むことで理解を促す。ワードマップを基にストーリー・リテリングを相手を替えながら何度も行うことで、「話す」場面とその練習時間を十分確保する。「相手に伝える」というタスクを通すことで互いに学び合う場面が生まれ、英文を「読む」という活動がより主体的なものとなり、理解が深まる。

振り返りとしては、「話したことを書く」という流れを基本とすることで、口頭だけでは正確さに欠けている部分を補いながら、落ち着いて文字で書くことで、正確さや論理性を確認することができる。また、書く活動に対し抵抗が大きい生徒がほとんどだと思われるが、話す活動を十分に行うことで、書くべき内容は既に頭の中であり、何を書いていいかわからない状態ではないので、英文を書く活動も抵抗なく行うことができる。

## 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・絶滅種として紹介されている種のおかれていた状況や人間の責任と救済方法について理解したことを、分詞による後置修飾、「理由・結果」を表す表現、間接疑問文等を用いて発表している。	・教科書から絶滅種についてどのようなことが実際に起こり、なぜそういう状況になったのかを考え、その理由を説明するために、ワードマップを使い鍵になる表現を活用しながら、自ら調べたものについて適切に相手に伝えている。	・絶滅（危惧）種について、具体的事例や人間とのかかわりについて積極的に知ろうとしている。 ・読んで理解したこと、それに対する自分の意見や感想、自ら調べた内容等を積極的に相手に伝えようとしている。

5 単元の指導と評価の計画（全7時間）

時	過程	学習課題と 主な学習活動	評価規準と評価方法
1	目的の設定・理解 ／ 目的に応じた発信までの方向性の確定・言語活動の見通し	<p>マッピングを活用した内容理解</p> <p>【学習課題】 かつて50億羽もいたリョコウバトが絶滅してしまった理由を、ワードマップを活用しながら英語で相手に簡潔に伝えることができる。(パート1)</p> <p>【主な学習活動】 ・本文を読んで内容に関する質問に答えたいうで、ワードマップを活用し要点を整理する。 ・マップを基にリテリング活動をし、話したことをもとに英語で要約文を書く。</p>	<p>【評価規準 (B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q&amp;A とワードマップをもとに、ストーリー・リテリングをすることができる。</li> </ul> <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明すべき要点を適切に捉えている。</li> <li>・相手の表現の参考になる箇所を自分に取り入れている。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップの作り方のポイントを個別に指導</li> <li>・黒板の Q&amp;A の答えを参考にさせる。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察 ・サマリーシート</li> </ul>
2		<p>【学習課題】 ロンサム・ジョージが「ロンサム」と呼ばれる理由を、英語でできるだけ自分の言葉として相手に簡潔に伝えることができる。(パート2)</p> <p>【主な学習活動】 ・本文を読んで内容に関する質問に答えたいうで、ワードマップを活用し要点を整理する。 ・マップを基にリテリング活動をし、話したことをもとに英語で要約文を書く。</p>	<p>【評価規準 (B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q&amp;A やワードマップからできるだけ目を離して、ストーリー・リテリングをすることができる。</li> </ul> <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明すべき要点を適切に捉えている。</li> <li>・相手の表現の参考になる箇所を自分に取り入れている。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップの作り方のポイントを個別に指導</li> <li>・黒板の Q&amp;A の答えを参考にさせる。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察 ・サマリーシート</li> </ul>
3	語彙理解と音読練習	<p>【学習課題】 パート1と2で登場した語句を理解したいうで、本文を英語らしく音読することができる。</p> <p>【主な学習活動】 ・語彙の発音と意味を確認しペアで練習する時間を十分確保し、その単語の使い方を理解し簡単な文を作れるレベルにまでする。 ・学習した語彙を踏まえ、本文を音読し、英語らしいイントネーションを意識して読む。</p>	<p>【評価規準 (B)】(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語らしいイントネーションを意識して音読している。</li> </ul> <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を理解し重要語句を強調している。</li> <li>・チャンクを意識し間も理解している。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・棒読みではなく、チャンクを意識させる指導をする。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> </ul>
4	マッピングを利用した内容理解	<p>【学習課題】 動物たちを救うために、どのような対策がとられているかを理解し、その内容を、相手を意識しながら簡潔に伝えることができる。</p> <p>【主な学習活動】 ・本文を読んで内容に関する質問に答えたいうで、ワードマップを活用し要点を整理する。 ・マップを基にリテリング活動をし、話したことをもとに英語で要約文を書く。 ・語彙定着のための練習と音読をし、相手に伝わる伝え方を理解する。</p>	<p>【評価規準 (B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q&amp;A やワードマップから序助に目を離し、相手の目を見ながらストーリー・リテリングができる。</li> </ul> <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明すべき要点を捉えている。</li> <li>・相手の上手な表現を取り入れている。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップの作り方のポイントを個別に指導をする。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察 ・サマリーシート</li> </ul>

5		文法・構文の理解	<p>【学習課題】 本文で登場した文法・構文の使い方を理解し、オリジナル文を作ることができる。</p> <p>【主な学習活動】</p> <p>①分詞による後置修飾</p> <p>②「理由・結果」を表す表現（so～that・・・）</p> <p>③S+V+O(=why-節)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これら3つを含んだ文を提示し、意味や場面を類推する。</li> <li>必要最低限の説明の後、オリジナル文を3種類作らせ、そのうち1文を黒板に書き、全体で共有しながら理解を深める。</li> </ul>	<p>【評価規準 (B)】(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文で登場した文法・構文の使い方を理解し、それらに沿ってオリジナル文を作ることができる。</li> </ul> <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項をからめた文をつくっている。</li> <li>今話題になっている事柄や若者目線の創造的な文をつくっている。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が提示した文を参考に形をまねさせる。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミニ添削シート・振り返りの記述内容</li> </ul>
6	目的実現のための言語活動「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型		<p>【学習課題】 ミニ・プレゼンテーションの準備</p> <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絶滅が危惧されている動物について、その名前、生息地域、絶滅に瀕している理由をグループで調べ、発表する準備をする。</li> <li>レッドリストを紹介し、インターネット等も利用し、キーワードをもとに調べる。</li> </ul>	<p>【評価規準 (B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に情報収集し、話す内容をまとめている。</li> </ul> <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英文サイトを積極的に活用している。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何をキーワードにするかを個別指導</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観察</li> </ul>
7	言語・内容の両面におけるまとめと振り返り	ミニ・プレゼンテーション	<p>【学習課題】 ミニ・プレゼンテーション</p> <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前半20分で準備の仕上げ、後半は発表。</li> <li>※全体の前での発表ではなく、各グループ（半数）が同時に発表し、半数は聴く側となる。教室内でローテーションをしながら、連続して発表・連続して聴講&amp;質問を行う。</li> </ul> <div data-bbox="371 1133 802 1339" data-label="Diagram"> </div> <p>● 発表者 □ 聞き手</p>	<p>【評価規準 (B)】(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アイコンタクトを取りながらわかりやすく伝えている。</li> </ul> <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>十分な声量で、簡潔に伝えている。</li> <li>聞き手とインタラクションを交えている。</li> </ul> <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>準備と練習の時間をしっかりとらせ、大きめのカードに、伝えるべき要点をメモさせる。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観察 ・ 振り返りシート ・ プレゼン準備資料</li> </ul>

6 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点に立った授業改善

本実践で行った、「アクティブ・ラーニング」の3つの視点に立った、授業改善のポイントについて実践内容を記したものを【表10】のようにまとめた。これらの8つの実践内容を基に授業を行った。

【表10】「アクティブ・ラーニング」の3つの視点を取り入れた、実践内容

	「答申」(2016)の記述	実践内容
「主体的な学び」の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むこと</li> <li>○自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【1】課題を明確に示す。 ・オーラル・イントロダクションにより教材と自身とを関連付ける。 ・最終到達目標の提示による各活動の意義の理解</li> <li>○【2】学びをアウトプットする振り返りの場面を工夫する。 ・発表と振り返りシートの記述によって学びを共有化する。</li> <li>○【3】実際のコミュニケーションに近づけた、やりとりする必然性のある場面を設定する。</li> </ul>
「対話的な学び」の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ること</li> <li>○言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション(対話や議論等)の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視すること</li> <li>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【4】教科書の題材について、読み取ったことをもとに、ペアやグループ内で情報や意見、考えを伝えあう。</li> <li>○【5】教科書の題材や対話のテーマについて、教師と生徒または生徒同士によるやりとりを増やす。</li> <li>○【6】聞き手や話し手に配慮しながら、あいづちや反応を取り入れるなど、やりとりに必要な、双方向によるコミュニケーション力を育成する。</li> </ul>
「深い学び」の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりすること</li> <li>○外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【7】マッピングを基に、教科書の内容や対話の内容について自分が伝えたいことを整理し、まとめる。</li> <li>○【8】身に付けた知識・技能を活用し、読んだり、聞いたりした内容について、アウトプットする統合的な言語活動を行なう。 ・アウトプットに向けた練習時間を保障する。 ・本文の内容を理解し、マッピングを活用したりテリングを行う。 ・タスクの解決を目指した言語活動 ・発表したことを書く活動につなげる。</li> </ul>

7 各時の展開

【本時の展開 1 / 7 時間目】

- (1) 目標 50 億羽もいたリョコウバトが絶滅した理由を英語で簡潔に説明できる。  
 (2) 展開

過程	生徒の学習活動 予想される生徒の姿	指導上の留意点と【評価規準】
導入 (10分)	1 絶滅が危惧されている動物に関するブレインストーミング。 2 写真を提示しながら絶滅（危惧）種に対する意識を高める。 3 本時の学習到達目標と単元の最終到達目標の提示。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の緊張がほぐれるように、導入を丁寧に、かつゆっくりで行う。</li> <li>写真を効果的に使いながら、本単元のテーマと生徒自身との関連性を理解させる。</li> <li>単元全体の最終到達目標も提示することで、見通しをもった形で授業がスタートできるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">Today's Goal: 50 億羽もいたリョコウバトが絶滅した理由を英語で簡潔に説明できる。</p>
展開 (35分)	4 キーワード（読前に提示する単語）の例示 【Reading】 5 本文を読んで、Q&A に取り組む。 (1) ペアで実際に質問をしあう形で答えを確認させる。 (2) あてられた生徒は黒板に答えを書く。 6 黒板の解答をベースに、生徒との対話しながら内容理解を促す。 7 ワードマップの作り方を説明し、マップを作りながら本文をもう一度読む。 【アウトプット活動】 8 ワードマップをもとにストーリーテリング。 9 マップを修正させたいうえで、相手を換えながら何度も練習する。 ◎マップを見ながら、思考錯誤を繰り返しながらも要点を整理しながら相手に伝えている。 ・マップに記入しているキーワードが少なく、時間をもてあましてい	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語とジェスチャーのみでキーワードを類推させる。</li> <li>制限時間を設定して読ませる。</li> <li>何を読み取るかを明確にして読ませる。</li> <li>机間巡視をしながら、例示したい解答を書いている生徒をみつけ、その生徒にカードを渡して黒板に解答を書いて欲しいことを伝えておく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準(B)】 <b>思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Q&amp;A とワードマップをもとに、ストーリー・リテリングをすることができる。</li> </ul> <p>【A の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明すべき要点を適切に捉えている。</li> <li>相手の表現の参考になる箇所を自分に取り入れている。</li> </ul> <p>【C の手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マップの作り方のポイントを個別に指導</li> <li>黒板の Q&amp;A の答えを参考にさせる。</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習振り返りシート</li> <li>ワークシート (Summary Writing)</li> </ul> </div> <p>・あいづちや反応を示すように促す。</p>
終末 (5分)	10 振り返り (1) 本時のゴール「リョコウバトがなぜ絶滅したか」を確認 (2) 話したことを整理しながら書く (3) 単語（ワードハント）は宿題	<ul style="list-style-type: none"> <li>可能であれば、上手に活動できていた生徒に発表してもらおう。</li> <li>ワークシートにサマリーを書く（または宿題）</li> <li>単語（ワードハント）はパート 1 と 2 とまとめてやることを予告。</li> </ul>



【本時の展開2 / 7 時間目】

(1) 目標 「ロンサム・ジョージ」がなぜ「ロンサム」と呼ばれるのか英語で説明することができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動 予想される生徒の姿	指導上の留意点と【評価規準】
導入 (10分)	1 「ガラパゴス諸島」を生徒から引き出す。 2 ガラパゴス諸島の位置を類推させる。 3 ゾウガメの写真を提示し、なぜ「ロンサム・ジョージ」と呼ばれるのかを考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォンと二つ折り携帯を提示しながら、「ガラケー」という言葉を導き、この言葉から「ガラパゴス」を想起させる。</li> <li>ガラパゴス諸島、マダガスカル島、タスマニア島、ハワイ諸島の世界地図上での位置を確認させる。</li> <li>ロンサム=lonesome という形容詞であることを lonely などの語や他の例を示しながら気付かせる。</li> </ul>
<p>Today's Goal: 「ロンサム・ジョージ」がなぜ「ロンサム」と呼ばれるのか英語で説明することができる。</p>		
展開 (35分)	4 キーワード（読前に提示する単語）の例示 <b>【Reading】</b> 5 本文を読んで、Q&A に取り組む。 (1) ペアで実際に質問をしあう形で答えを確認させる。 (2) あてられた生徒は黒板に答えを書く。 6 黒板の解答をベースに、生徒との対話しながら内容理解を促す。 7 ワードマップを作りながら本文をもう一度読む。 <b>【アウトプット活動】</b> 8 ワードマップをもとにストーリーテリング。 9 マップを修正させたいうえで、相手を換えながら何度も練習する。 ◎マップからできるだけ目を離して、相手とアイコンタクトを持ちながら要点を伝えることができる。 ・マップから目を離すことができず、相手にとってわかりやすい伝え方になっていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語とジェスチャーのみでキーワードを類推させる。</li> <li>制限時間を設定して読ませる。</li> <li>何を読み取るかを明確にして読ませる。</li> <li>机間巡視をしながら、例示したい解答を書いている生徒をみつけ、その生徒にカードを渡して黒板に解答を書いて欲しいことを伝えておく。</li> </ul> <p><b>【評価規準(B)】</b> <b>思考・判断・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Q&amp;A やワードマップからできるだけ目を離して、ストーリー・リテリングをすることができる。</li> </ul> <p><b>【Aの視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明すべき要点を適切に捉えている。</li> <li>相手の表現の参考になる箇所を自分に取り入れている。</li> </ul> <p><b>【Cの手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マップの作り方のポイントを個別に指導</li> <li>黒板のQ&amp;Aの答えを参考にさせる。</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習振り返りシート</li> <li>ワークシート (Summary Writing)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>あいづちのバリエーションを教える。</li> <li>聞き手は、話し手が話した後に「自分の感想」または「質問」をするというタスクを与え、受け身にならないようにする。</li> </ul>
終末 (5分)	10 振り返り (1) 本時のゴール「ロンサムと呼ばれる所以」を確認 (2) 話したことを整理しながら書く (3) 単語（ワードハント）は宿題	<ul style="list-style-type: none"> <li>可能であれば、上手に活動できていた生徒に発表してもらう。</li> <li>ワークシートにサマリーを書く（または宿題）</li> <li>単語（ワードハント）はパート1と2とまとめてやることを予告。</li> </ul>

①本文で使用したワークシート (Part1)

コミ I L5 Part ②	Class. <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 150px; height: 15px;"></span>
	<b>Many Animals Are Dying Out</b>
	<b>Goal:</b> ロンサム・ジョージがロンサムと呼ばれる理由を ワードマップを使って英語で説明することができる。

**Task 1:** *Read the text in 10 minutes and answer the following questions below.*

**Part 2**

Lonesome George was probably the loneliest animal in the world. He was the last survivor of the Pinta giant tortoises.

Like passenger pigeons, Pinta giant tortoises have been victims of overhunting, too. They were easy to catch. Also, they could live for about a year without eating. So sailors carried living giant tortoises on their ships for fresh meat.

George lived with two female tortoises of another species. But reproduction with George wasn't successful. He died in 2012 without any children.

**Questions : Answer in full sentences**

Q1. Why is Lonesome George the loneliest animal in the world?(2)  
 He was the last survivor of the Pinta giant tortoises.

Q2. Why have Pinta Island tortoises been disappearing?(2)  
 Pinta giant tortoises have been victims of overhunting too.

Q3. Why were Pinta Island tortoise overhunted?(2)  
 They were easy to catch.

Q4. Why did sailors carry living giant tortoises on their ships?  
 Sailors carried living giant tortoises on their ships for fresh meat.

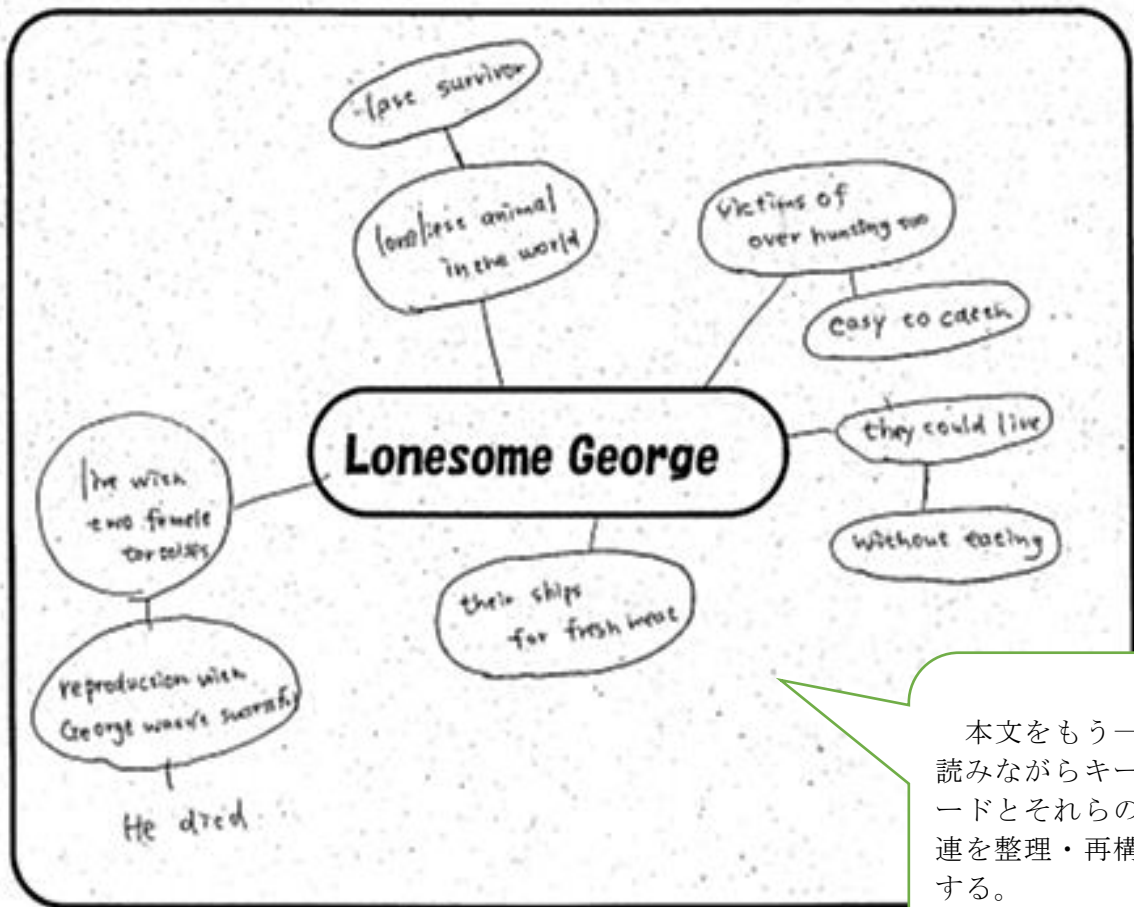
Q5. Who is George now living with? (What lived with George?)  
 George lived with two female tortoises of another species.  
 Could live for about a year without eating

Q6. Did George become a father?  
 He died in 2012 without any children.  
 Reproduction with George wasn't successful.

辞書を使わず、時間を制限して初見の英文を集中して読ませる。

本文についてのQ&A。答えの部分つなぐと要約文になる。

**Task 2 : Mapping**



本文をもう一度読みながらキーワードとそれらの関連を整理・再構築する。

**Task 3 : Vocabulary hunt**

	English		Japanese	Check
1	lonely...	形容詞	孤独な	
2	loneliest	形容詞	もっとも孤独な	
3	survivor	名詞	生き残り	
4	Pinta	名詞	ピンタ (島)	
5	giant tortoise	名詞	ゾウガメ	
6	victim	名詞	犠牲	
7	without doing	(2語で)	～しないで	
8	sailors	名詞	船員・船乗り	
9	female...	形容詞	メスの	
10	species	名詞	種	
11	reproduction	名詞	繁殖	
12	successful	形容詞	成功	
13				

語彙は日本語を与え、英語を探させる。読みのスピードを落とすことなく、類推する力を育てたい。

コミ I  
L5  
Part  
②

Class. \_\_\_\_\_

### Many Animals Are Dying Out

Goal: ロンサム・ジョージがロンサムと呼ばれる理由を  
ワードマップを使って英語で説明することができる。

#### Task 4 Summary Writing

Lonesome George was the loneliest animal and the last survivor of the Pinta giant tortoises. They have been victims of overhunting, also, sailors eat them for fresh meat.

Lonesome George died in 2012 without any children.

十分に話す活動をした後に、「話したこと」を「書く」という順番で行うことで、「書くこと」に対する抵抗を軽減させながら、内容の整理・再構築と正確さを高め、振り返りとする。

日本語の要約を課すことで、英語による説明や言語活動によって生じがちな「あいまいさ」を埋め、内容面の再構築によって理解を深めさせる。

#### Task 3 概要を日本語で要約してみよう。

ロンサム・ジョージはニホンザル以外の動物で、ピントガウツの最後の生き残りだった。ピントガウツは乳類の犠牲になる。また、船員は新鮮な肉として彼らを食っていた。

ロンサム・ジョージは子どももいないまま、2012年に死んだ。

(2) 授業実践後の捉え

ア 「主体的な学び」の実現に係る振り返り・記述から

「主体的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述を【表 11】に示す。

【表 11】「主体的な学びの実現」に向けての手立てと「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述

「主体的な学び」の実現に向けて		
「答申」の記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を学ぶことに興味や関心を持ち，どのように社会・世界と関わり，生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて，見通しを持って粘り強く取り組むこと</li> <li>○自分の意見や考えを発信したり評価したりするために，自らの学習のまとめを振り返り，次の学習につなげること</li> </ul>	
実践内容とその手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【1】課題を明確に示す。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーラル・イントロダクションにより教材と自身とを関連付ける。</li> <li>・最終到達目標の提示による各活動の意義の理解</li> </ul> </li> <li>○【2】学びをアウトプットする振り返りの場を工夫する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表と振り返りシートの記述によって学びを共有化する。</li> </ul> </li> <li>○【3】実際のコミュニケーションに近づけた，やりとりする必然性のある場面を設定する。</li> </ul>	
振り返り及び観察の記述	生徒の振り返り	参観者の観察
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最初に今日のゴールが示されていた。</li> <li>・流れが黒板にあったりしたので，授業の流れがつかみやすかった。</li> <li>・やる事が分かったので，気楽にできた。</li> <li>・すでに絶滅した動物だけでなく，絶滅しそうな動物も知りたい。</li> <li>・それぞれの絶滅の原因を知りたい。</li> <li>・今回の授業で興味が深まった。</li> <li>・まとめたり，話したりするために内容をしっかり理解することが必要になると思ったのでがんばろうと思いました。</li> <li>・プレゼンテーションにはいろいろな力が必要だと思う。</li> <li>・危機感ができました。</li> <li>・発表するならちゃんとした内容を伝えたい。</li> <li>・ちゃんとやっておかないとプレゼンテーションできない。</li> <li>・みんなの前で発表してもはずかしくないように話す力を高めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が何につながっているかをイメージできないと，何事もがんばることができません。生徒達から，何とかついていこうとする気持ちが見えるのは，事前 goal がしっかりしているからと感じる。</li> </ul>

イ 「対話的な学び」の実現に係る振り返り・記述から

「対話的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述を【表 12】に示す。

【表 12】「対話的な学び」の実現に向けての手立てと「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述

「対話的な学び」の実現に向けて		
「答申」の記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者を尊重した対話的な学びの中で，社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ること</li> <li>○言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視すること</li> <li>○コミュニケーションを行う目的，場面，状況に応じて，他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場면을計画的に設けること</li> </ul>	
実践内容とその手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【4】教科書の題材について，読み取ったことをもとに，ペアやグループ内で情報や意見，考えを伝えあう。</li> <li>○【5】教科書の題材や対話のテーマについて，教師と生徒または生徒同士によるやりとりを増やす。</li> <li>○【6】聞き手や話し手に配慮しながら，あいづちや反応を取り入れるなど，やりとりに必要な，双方向によるコミュニケーション力を育成する。</li> </ul>	
振り返り及び観察の記述	生徒の振り返り	参観者の観察
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認することで自分の答えに自信が持てる。</li> <li>・同じ意見の人がいることで自信がつくし，教え合える。</li> <li>・あまり自信が持てなかったものがペアと話すことによって自信がついた</li> <li>・授業中に意見を出しやすい雰囲気です，発言などがしやすかった。</li> <li>・1人でやるより心強いと思う。</li> <li>・普通に答え合わせするよりも，理解が深まったように感じた。</li> <li>・話す機会が増えたので単調にならなかったと思う。</li> <li>・ただ答えるだけじゃなくて，聞く方もやるとあきない。</li> <li>・英語を話す力も鍛えられると思う。</li> <li>・聞いてくれていると実感できた。</li> <li>・うなずきで相手も自分も安心した。</li> <li>・伝わっているかんじがある。</li> <li>・しっかり会話になっている気がする。</li> <li>・相手に伝えようとするといねいに伝えようとする。</li> <li>・少しでも伝わるように努力した。</li> <li>・目を見て話す伝わった気がした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのためには教科，クラス(コース)，学年，学校での良い雰囲気が必要だと感じる。</li> <li>・だまっていると良く理解しているかわからないので有効だと思う。</li> <li>・相手を意識した読み (reason to read) が大切であることがわかった。</li> </ul>

ウ 「深い学び」の実現に係る分析

「深い学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述を【表 13】に示す。

【表 13】「深い学び」の実現に向けての手立てと「生徒の振り返り」及び「参観者の観察」の記述

「深い学びの実現」に向けて		
「答申」の記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語の働きや役割に関する理解，外国語の音声，語彙・表現，文法の知識や，それらの知識を「聞くこと」，「読むこと」，「話すこと」，「書くこと」において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し，実際に活用して，情報や自分の考えなどを書いたり話したりすること</li> <li>○外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し，学習内容を深く理解し，学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり，資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにすること</li> </ul>	
実践内容とその手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【7】マッピングを基に，教科書の内容や対話の内容について自分が伝えたいことを整理し，まとめる。</li> <li>○【8】身に付けた知識・技能を活用し，読んだり，聞いたりした内容について，アウトプットする統合的な言語活動を行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプットに向け，練習時間を保障する。</li> <li>・本文の内容を理解し，マッピングを活用したリテリングを行う。</li> <li>・タスクの解決を目指した言語活動を行う。</li> <li>・発表したことを書く活動につなげる。</li> </ul> </li> </ul>	
振り返り及び観察の記述	生徒の振り返り	参観者の観察
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短い言葉を使うことや，図に表すことで，関係などが分かりやすくなった。</li> <li>・キーワードがわかって，より理解できた。</li> <li>・本文だけで読み取るのではなくワードマップでより深まった。</li> <li>・再度読むことの大切さを改めて知れました。</li> <li>・複数回話すことで，自分の中でうまく文をつなげられるようになったし，色々な人の話し方をきけたので良かった。</li> <li>・相手が変わることでより多くの考えを知ることができたし，英語を話す力もきたえられたと思う。</li> <li>・違う人で行うことで新鮮さがあった。</li> <li>・人によって表現が違うので良い。</li> <li>・少しずつうまくなった。</li> <li>・何度も内容を話すと，次第に内容がわかってくる。</li> <li>・ゆっくり振り返ることができ，ちゃんと理解できた。</li> <li>・復習ができて，忘れにくくなりました。</li> <li>・内容がわかりやすくなり，学んだことが整理されたように感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思考を整理しながら読むことで，リテリングに生かす事前トレーニングになります。</li> <li>・見ないで活動し始めた時の生徒の様子がすごくよかったので，ぜひとも取り入れたいと思います。</li> <li>・ゴール設定が大切だと感じました。</li> </ul>

### (3) 理論実践のための留意点

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を念頭に、単元を構成し授業実践を行ってきた。本実践を通して得られた留意点を以下に示す。なお、実践内容についての具体的な手立ては、本報告書の p37 に記載している。

#### ア 「主体的な学び」の実現に向けて

- ・手立て1 課題を明確に示す。

単元の到達目標について、単元の到達目標となるパフォーマンスを具体的に示したことで、生徒はこれから何を学ぶのか、どのようなことができるようになっていけばよいかを理解し、学習意欲の向上につなげるために、とても重要である。

また、ルーブリックを示すことは、生徒が学びに対する自分の立ち位置がどこにあるか、具体的には、「どのような力が身に付いたか」を意識させることができ、見通しを持ちながら学びに向かわせるためにとても有効である。その一方、どのような資質・能力を育成するか、明確にしながらか、具体的で分かりやすい表現でルーブリックを作成することがとても大切であり、今後、研究を進めていく必要がある。

- ・手立て2 学びをアウトプットする振り返りの場面を工夫する。

その日学んだことを振り返る時間を設定し、振り返りシートを記入させ、その意見や考えをグループで交流させた。このように、その授業で学んだことを外化させることは、学んだことをより深い理解につなげ、次にどのような学びにつながっていくか、見通しをもたせるために、とても重要である。

- ・手立て3 実際のコミュニケーションに近づけた、やりとりする必然性のある場面を設定する。

「絶滅（危惧）種について調べたことをプレゼンテーションし、相手に伝える」という、実際のコミュニケーションに近づけた必然性のある場面設定を行った。生徒は、自ら調べて情報を得た絶滅（危惧種）について伝えたい、という気持ちを強く持っていた。今後は、生徒が自分の気持ちや考えを伝えたい、また、相手のことを聞きたい、と思えるような題材を設定することや、社会的な話題と自分自身がつながるような場面設定が必要である。そのためには、教師が今以上に生徒によりそい、生徒の興味や関心を知る必要がある。

#### イ 「対話的な学び」の実現に向けて

- ・手立て4 教科書の題材について、読み取ったことをもとに、ペアやグループ内で情報や意見、考えを伝えあう。

「アクティブ・ラーニング」において、生徒同士の話し合いや教え合い活動が重視されている。英語科においては、読み取ったことを基に Q&A を行ったり、ペアやグループによるやりをしたりする場面を設定することは、英語による理解や知識・技能を高めることにつながる。

単元のゴールに向けた対話練習において、相手を替えながらやりとりする毎に、教えあったり、お互いのよい点を学び合ったりすることができた、という生徒の記述からも有効であることが分かった。

- ・手立て5 教科書の題材や対話のテーマについて、教師と生徒または生徒同士によるやりとりを増やす。

コミュニケーションにおいて、生徒に身に付けさせたい資質として、相手を思いやり、尊重する態度を育成することが挙げられる。そこで、伝える側は、相手に分かりやすいようにするにはどうしたらよいかを考えながら、やりとりさせることが重要である。また、受け取る側も、相手が伝えようとしていることを理解しようとし、そのことを伝えることも、やりとりを通して考えるような、双方向のコミュニケーション力の育成が重要である。

- ・手立て6 聞き手や話し手に配慮しながら、あいづちや反応を取り入れるなど、やりとりに必要な、双方向によるコミュニケーション力を育成する。

英語で授業を進めることの意義は、教師が英語で指示を出したり、文法の説明をしたりすることが一番の目標ではない。生徒にいかに関英語を使わせる目的や場面、状況を教室内で設定することが重要である。そこで、教科書の題材や新出表現について、教師が Teacher Talk を行うこと



で、英語を聞く機会、また、生徒が自分の気持ちや考えを伝え合う場面、新出表現に慣れながら英語による表現力を高めることができる。このようなやりとりする場面を通して、自分が言いたいことを伝えられたり、逆に言いたいけど言えなかったことを、やりとりを通して相手から学び、伝えられるようになったりする場面を工夫することが必要である。

また、ゴールに向けた言語活動でも、ペアをどんどん替えながら、生徒同士が対話する場面を設定したことで、話す内容にまとまりが生まれ、表情にも笑顔が見られ、自分の話す英語に自信を持ち、楽しみながら言語活動を行っていた。

#### ウ 「深い学び」の実現に向けて

- ・手立て7 マッピングを基に、教科書の内容や対話の内容について自分が伝えたいことを整理し、まとめる。

本実践において、教科書の題材について内容理解を英語で行うために、読み取った内容を相手に伝える、という統合的なアウトプット活動を行うことで、意欲的に何度も読み返し、本文と向き合っていた。まさしく、これから生徒に身につけさせるべき資質・能力を養うために必要な言語活動である。

キーワード・マッピングを活用することで、教科書や相手の伝えたいメッセージを深く読み取り、自分の言葉として整理する力が身に付くと考えられる。

- ・手立て8 身に付けた知識・技能を活用し、読んだり、書いたりした内容について、アウトプットする統合的な言語活動を行う。

生徒が本気になって自分のことを伝えたいようなテーマを基に、そのために本当に言いたいことを深く思考し、必要な既習表現を活用するような言語活動が必要である。また、そのような言語活動を行う際に、自分と相手との間にインフォメーションギャップが生まれるような言語活動を設定することが必要である。そうすることで、話したり聞いたりする必然性が生まれてくる。

生徒全員ができた、という達成感を味わわせるためには、目標に見合った意味のある練習が必要である。それをスモールステップで、十分な時間を設定することで、生徒に自分の成長を実感させることができる。また、質の向上を高めるためには、多くの友だちとのやりとりを通して、発表の仕方や話す内容、表現の仕方の違いを学び取り、さらによりよい発表ができないかという意欲を持ちながら、よりよい発表につなげることができる。

#### エ 単元で働く「見方・考え方」を基にした単元構想に向けて

単元で働く「見方・考え方」を構造的に示し、それに基づいた単元の指導を展開することにより、付きたい力を指導者が意識するとともに、学習者も付いた力を実感できる学びとすることができる。

### VIII 研究のまとめ

本研究は2年研究であり、1年目の本年度は研究理論の構築を目的として取り組んだ。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善はどうあれば良いのかについて、今年度は授業実践との往還を通して、「答申」に基づいた理論化を図った。その結果、各教科で来年度の本格実践および検証に向けての理論を構築し、単元の指導案などのモデルを示す事ができた。

この理論化のプロセスで得られた教科レベルでの成果や課題点を下記に示す。

#### 1 研究の成果

- ・「審議のまとめ」において中学校の課題とされた、「文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたか」という点に重点が置かれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現すること」に対応する授業提案を実践することができた。
- ・「資質・能力を育む学習過程例」を作成し、それに沿った単元構想を示すことができた。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の考え方について、授業改善の方策を構想し、実践を通して具体的な考え方と学習活動を示すことができた。

## 2 今後の課題

- ・「学習評価の充実」については、継続的に取り組む必要がある。特に、ルーブリック評価について、発信者側だけに留まらず、受信者側も含めた双方を評価する評価の在り方について、研究を進めていく必要がある。
- ・「これからの時代に求められる人物像」「学校教育目標」との関わりを踏まえて、個々の生徒の最終的な到達目標達成に向けて、実践研究を進める必要がある。
- ・より一層の「主体的・対話的で深い学び」が実現されるよう学校全体で実践研究を進める必要がある。

## 3 来年度に向けて

完成年度である来年度は、今回構築した理論および単元の指導案等に則った実践に入る。来年度は研究協力校および研究協力員、研究担当者による単元レベルでの実践を予定しており、その中で得られた知見の整理とデータの分析・検証を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を通しての資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方について、報告書並びにガイドブック等を通して広く普及していく予定である。

### <おわりに>

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました学校の校長先生をはじめとする諸先生方、生徒のみなさんに心からお礼を申し上げます。また、研究協力員としてご協力いただきました先生方から感謝申し上げます。

## Ⅹ 引用文献、参考文献及び参考 Web ページ

### 【引用文献】

中央教育審議会(2016),「幼稚園,小学校,中学校,高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」p. 2, p. 5, p. 6, p. 13, pp. 28-30, pp. 33-34, pp. 49-50, p. 52, pp. 60-63

### 【参考文献】

- 磯田貴道(2010),『教科書の文章を活用する英語指導—授業を活性化する技 108—』,成美堂  
卯城祐司(2014),『英語で教える英文法 一場面で導入,活動で理解』,研究社  
太田 洋(2007),『英語を教える 50 のポイント』,光村図書  
上山晋平(2016),『授業が変わる!英語教師のためのアクティブ・ラーニングガイドブック』,明治図書  
胡子美由紀(2011),『生徒を動かすマネジメント満載!英語授業ルール&活動アイデア 35』,明治図書  
胡子美由紀(2016),『生徒をアクティブ・ラーナーにする!英語で行う英語授業のルール&活動アイデア』,明治図書  
菅 正隆(2010),『日本人の英語力 それを支える英語教育の現状』,開隆堂  
齋藤栄二(2015),『「英語で授業」ここがポイント』,大修館書店  
染矢正一(2013),『新版 教室英語表現辞典』,大修館書店  
高橋一幸(2011),『成長する英語教師—プロの教師の「初伝」から「奥伝」まで』,大修館書店  
巽 徹(2016),『アクティブ・ラーニングを位置づけた中学校英語科の授業プラン』,明治図書  
投野由起夫(2013),『英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』,大修館書店  
溝上慎一(2014),『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』,東信堂  
村野井仁(2006),『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』,大修館書店  
望月昭彦編著,久保田章,磐崎弘貞・卯城祐司著(2010),『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』,大修館書店  
岩手県教育委員会(2016),『岩手県中学校学習定着度状況調査』

### 【参考 Web ページ】

中嶋 洋一(2011),『バックワード・デザインによる「指導案改善」研修のすすめ—本気で,今の授業を変えたい人へ—(2011.5.07)』NPO 法人教育情報プロジェクト 英語教育東京フォーラム  
<http://www.e-prosjp.com/report/view/40> (2016. 8. 25 閲覧)